

2023年度
海と日本ニュースプロジェクト
実施報告書

2024年3月31日
一般財団法人うみらい環境財団

1 事業概要

1 (1)事業サマリー

海と日本プロジェクトをはじめとした日本財団の様々な事業やイベントをオフィシャルメディアとして取材した動画記事や、海と日本プロジェクトを情報ソースとした地方テレビ局動画をWebに最適化するように編集した動画記事をソーシャル・イノベーション・ニュースサイト上で計40本掲載し398万PVを達成。

さらにYahoo!ニュースでも記事を配信することによって、海と日本プロジェクトの活動や海洋に関わる課題及びその解決に向けた取組を多くのインターネット視聴ユーザーに拡散することに成功した。

また、取材動画記事の映像素材や海岸、海中、海洋ごみ等の海に関する映像素材をキー局をはじめとした全国のメディアに数多く提供することで、多くの露出を獲得することができた。

PV数 3,986,411

(2023年4月1日から2024年3月31日までの期間)

1 (2)実施主体

一般財団法人うみらい環境財団

1 (3)実施期間

2023年4月~2024年3月

2 ニュースサイト運用

ソーシャル・イノベーション・ニュース <https://social-innovation-news.jp/>



ソーシャル・イノベーション・ニュース | 日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」

🏠 > 海洋危機特集

海洋危機特集

海洋危機特集

日本は、四方を海に囲まれた国です。私たちの社会や文化は、海に囲まれた環境の中で形づくられてきており、食べ物、名前や地名、祭りなどさまざまなものが内陸、沿岸問わず海と結びついています。

しかし今、気候変動や自然災害、海洋生物資源の乱獲、生態系のバランス崩壊など、海の危機は私たちの気づかないところであがっています。海に囲まれた日本に暮らす私たち一人ひとりが

ビジネスを
加速させる1枚
もう1枚
三井住友カードをお持ちの個人
事業主様必見
三井住友カード
カテゴリー

日本のさまざまな社会課題に取り組む「社会課題解決型ニュースサイト」である
ソーシャル・イノベーション・ニュースの中に、今年度も**海洋危機特集コーナー**を設けた。

地方取材や専門性の高いテーマにも対応できるように
強化した独自動画取材チームを設置し、日本財団主催のイベントや
会見の様態を速報性を持つ形で伝えたり、海と日本プロジェクトの自主事業として
行われたイベントの様態を、イベント全体を取材するだけでなく、
参加者に密着するなど**深掘りする**形で伝えることで、**海と日本プロジェクトについて
包括的に発信する媒体**となっている。

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
1	全国	海ごみ	廃棄漁網がオシャレアイテムに生まれ変わった！～「日本財団×ALLIANCE FOR THE BLUE × Creema」によるアップサイクル～
2	全国	海の体験機会づくり	海のスーパーキッズが全国から集結～「全国子ども熱源サミット」初開催～
3	全国	海の体験機会づくり	スーパー中学生が大好きな海の生き物を3D化！～二期生の研究発表会&修了式「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」～
4	全国	生態系	目標10万種！新種の海洋生物を探すプロジェクト開始～日本財団とNekton財団による「The Nippon Foundation-Nekton Ocean Census」始動～
5	全国	海の体験機会づくり	海岸が映画館！？逗子から映画と海洋問題を発信～第12回「逗子海岸映画祭」～
6	全国	海ごみ	コスプレイヤーが道頓堀の周辺でごみ拾い～「春の海ごみゼロウィーク2023」キックオフイベント～
7	全国	海の体験機会づくり	函館の灯台サウナや和歌山の灯台ホテルなどモデル事業が続々～灯台の利活用について語る「海と灯台のまち会議」～
8	青森県 宮城県 山形県 香川県 愛知県	安全・そなえ	いま知っておくべき水難事故防止のそなえ～「溺れないため」と「万が一の対処法を身に着ける」という2つの水辺のそなえ～
9	全国	海の体験機会づくり	香川県で川の水を抜いて大清掃！～瀬戸内4県（香川・岡山・広島・愛媛）と日本財団が共同する「瀬戸内オーシャンズX」による一掃作戦～
10	全国	安全・そなえ	命を救うライフジャケットの正しい着用方法～ライフセーバーが教える水難事故防止のための実践的な「そなえ」【前編】～
11	青森県 宮城県	安全・そなえ	水辺の事故防止！浮いて救助を本当に待てる？～ライフセーバーが教える水難事故防止のための実践的な「そなえ」【後編】～
12	全国	海の体験機会づくり	千葉県・御宿で聴覚に障がいを持つ人達のボディボード大会～世界一に輝いたプロもサポートする「AKEUMI Deaf BB CUP」～
13	全国	テクノロジー	世界初にも挑戦！無人運航船プロジェクトの第2ステージ～「MEGURI2040」による無人運航船セミナー～
14	全国	海の体験機会づくり	サザエさんが社会貢献者として特別賞～「第59回 社会貢献者表彰式典」
15	全国	海の体験機会づくり	子ども達がサンゴを守るお仕事を体験！～静岡県沼津市で行われた「こどもわーく 海のお仕事プロジェクト」～
16	全国	海ごみ	海と人をつなぐ「御前崎 渚の交番」～マリンスポーツで子ども達の健全な心を育む～
17	全国	海の体験機会づくり	お相撲さんとサザエさんがビーチクリーン～片瀬東浜海水浴場で活動する「海と日本プロジェクト」と「海さくら」～
18	全国	海の体験機会づくり	海の自由研究をインフォグラフィック化！～小学生と美術専門学生がタッグ「第3回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
19	全国	海ごみ	コスプレイヤーが横浜を大清掃！～日本財団と環境省による「秋の海ごみゼロウィーク2023」キックオフイベント～
20	全国	海の体験機会づくり	ミシュランシェフが伴走！学生が海と食を学んで実践するプログラム～Chefs for the Blueによる「THE BLUE CAMP」【前編】～
21	全国	海の体験機会づくり	ミシュランシェフが伴走！学生が海と食を学んで実践する「THE BLUE CAMP」～3カ月間の集大成・ポップアップレストラン開店【後編】～
22	全国	海の体験機会づくり	デザインから海を知る・考える～東京・六本木で開催中の「第二回 国際海洋環境デザイン会議」～
23	全国	海の体験機会づくり	サザエさんと元日本代表アスリートとよみこ・濱口がコラボ！～イトーヨーカドーで海と日本プロジェクトとサザエさんがイベントを開催～
24	全国	未分類	日本代表が決定！世界初「スポGOMIワールドカップ」～新宿で日本STAGEが開催～
25	全国	海の体験機会づくり	愛媛県が日本一！高校生が缶詰を開発する全国大会～LOCAL FISH CAN グランプリ2023～
26	全国	海の体験機会づくり	神奈川県・真鶴の磯で生物観察会～真鶴町立遠藤貝類博物館とディスカバーブルーによる「海のミュージアム」～
27	全国	安全・そなえ	世界各国の海上保安機関トップが日本に集結～海上保安庁と日本財団が共催「第3回 世界海上保安機関長官級会合」～
28	全国	海の体験機会づくり	マルシェ・宿泊・現代の灯台守！灯台の利活用を考えるシンポジウムが開催～海と灯台ウィーク中に開催された「海と灯台サミット2023」～
29	全国	海の体験機会づくり	歓喜に涙も！高校生が海の課題と想いをポスターに～「うみぼす甲子園2023」決勝プレゼン大会～
30	全国	海の体験機会づくり	スポーツごみ拾いで昨年6位だった大分代表の高校生が念願の優勝！～「スポGOMI甲子園2023」全国大会～
31	全国	海の体験機会づくり	世界初！渋谷でごみ拾いのワールドカップ開催！～「第1回スポGOMIワールドカップ決勝大会」【前編】～
32	全国	海の体験機会づくり	世界初！渋谷でごみ拾いのワールドカップ開催！～「第1回スポGOMIワールドカップ決勝大会」【後編】～
33	全国	海の体験機会づくり	外国人が日本の“魚をさばく”を体験～「Sabakeru: Sustainable Seafood Culture from the Japanese Kitchen」～
34	宮城県	海の体験機会づくり	閉館後の水族館でコンサートにディナー～仙台うみの杜水族館と新江ノ島水族館が行ったスペシャル体験～
35	全国	テクノロジー	学生が掘り起こしたクジラを展示～東京海洋大学マリンサイエンスミュージアムにコククジラの標本を展示～
36	全国	海の体験機会づくり	三重の海から伊勢海老が消える！？～各地の海の課題に取り組む「海のごちそうプロジェクト」～

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
37	兵庫県 高知県 愛知県	安全・そなえ	必見！迫る災害の脅威に防災を！～愛知・兵庫・高知で行われている防災対策～
38	長崎県 鹿児島県	生態系	ペンギンの長崎方式とジンベエザメのかごしま方式って？～水族館のお仕事@九州～
39	和歌山県 山形県	生態系	日本一や日本初だらけ！クラゲ・サンゴ・ウミガメで日本が誇るスゴイ水族館～水族館のお仕事@山形・和歌山～
40	愛媛県 香川県 鳥取県	生態系	中国・四国地方でのブルーカーボンに関する取り組み～香川・愛媛・鳥取で行われる藻場づくり&磯焼け対策～

No.	1	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1514				



廃棄漁網がオシャレアイテムに生まれ変わった！ ～「日本財団×ALLIANCE FOR THE BLUE ×Creema」によるアップサイクル～

日本財団×ALLIANCE FOR THE BLUE（アライアンス・フォー・ザ・ブルー）×Creemaによる廃棄漁網のリサイクル生地を使った作品についての記者会見が、2023年3月9日に行われました。

世界的な課題となっている海洋ごみ問題。日本の海岸に漂着している海洋ごみ（人工物）のうち、漁網・ロープが容積ベースで2～3割と、もとの製品が特定できるものとしては最も多くを占めています（2016年・環境省、国内10地点での漂着ごみ調査）。そこで、日本財団は2020年7月、企業間連携組織「ALLIANCE FOR THE BLUE（アライアンス・フォー・ザ・ブルー）」を設立。廃棄される漁網をアップサイクルし、資源化と製品開発に取り組んできました。しかし、ALLIANCE FOR THE BLUEの野村浩一代表理事によると「環境に良いのだから多少高くても買ってくれるだろうと思っていたが、実は環境に良いだけでは売れないことがわかってきた」と話します。そこで、月間のサイト・アプリ訪問者数が2000万人を超える日本最大級のハンドメイドマーケットプレイス「Creema」を運営する株式会社クリーマとコラボレーション。クリエイターから廃棄漁網をリサイクルした生地を使った作品を募集するコンテスト企画を実施し、厳選した31の作品を商品化しました。株式会社クリーマの丸林耕太郎社長は「社会課題など世の中の難しい問題は、楽しく面白く解決しなければ広まらない。ものづくりを通して、こういった課題に取り組むことができると思い、実現したのが今回の取り組み。普通感覚で欲しくなるもの、そして、日常的に使うことができるアイテムが誕生した」と語っています。日本財団の海野光行常務理事は「クリエイターの皆さんが入ってくれたことによって、私達では発想できないような色んなアイデアが生まれたのでビックリした」とコラボへの手応えを感じていました。ちなみに、お気に入り、和服をリサイクルした生地も使用したリバーシブルのジャケットだそうです。野村代表理事は「我々のゴールは廃棄漁網だけをなくそうではなく、海洋プラスチック問題をなくすこと。フロートやパイといったごみの削減にも取り組んでいく」と今後について語っています。

商品化されたアイテムは、「Creema
（<https://www.creema.jp/feature/1679>）」で販売されています。

No.	2	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1521				



海のスーパーキッズが全国から集結～「全国子ども熱源サミット」初開催～

都内で「全国子ども熱源サミット」が、2023年3月24日から26日まで開催されました。このイベントは、全国から海マニアの小学生20人が集結。自分たちの活動を発表したり、さまざまな海の知見を学習したりしながら、海への関心をもっと深めてもらおうというもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として開催されました。

2日目に行われたのは「熱中授業」で、まずは富山県の魚津水族館や沖縄県のビーチなど、日本各地と中継を繋ぎ、さまざまな視点から海を学習。さらには、海外ともライブ中継。世界の海で調査・研究を行っているイギリスのネクトン財団からは深海の生き物について学びました。子ども達はネクトン財団の最高責任者であるオリバー・スティーブズさんに英語で質問。山村理透くんは「海の未来を決定づける重要なポイントは何だと思えますか？」と聞いたところ、「鍵となるのは漁業かもしれないね。持続的な形で管理できるかどうかだよ」とオリバーさんは答えました。

そして、最後に行われたのがグループワークです。サミットのテーマ「人は海と共にある」を目指すために、自分たちで出来ることや社会に必要なことを考えました。企業や自治体を巻き込んでのごみ拾い活動を行ってきた三輪風乃衣さんがいるグループは、「アイデアで社会を変える」をテーマに発表。100人中3.5人が動きかければ全体が動き出す「3.5%ルール」をもとに、それぞれが世界の動かし方を考え、三輪さんは「海に親しみがない人は、アニメやゲームなどと関連づけると親しみやすいと思います」と提案しました。そして、サメを研究・飼育している石野立翔くんがいるグループは、「魚から見える海の環境」をテーマに発表。海底に沈んだ漁具により、意図せず長期間にわたって魚介類が捕獲される「ゴーストフィッシング」などを紹介しながら、「今の状況・環境を見つめ合い、見直していくこと。また、保全活動を積極的にしていくことが何よりも大切なことだと思います」と提言しました。

このサミットを通じて、誰よりも海が好きなのは、同じ心を持つ仲間との出会いが何にも代えがたい経験となったようで、石野くんは「学校だったら好きな魚のことで臭いとか汚いとか否定されるけど、ここは逆に賞賛されるという最高の場所だと思いました」と語っています。また、三輪さんは「みんなの海が好きなのが伝わってきたので、私も海が好きということ、自分の活動と今後について伝える努力をしました」と振り返っています。

まるで水を得た魚のように海の学びを楽しんだ子ども達の未来について、イベントを見守っていた日本財団の海野光行常務理事は、「飛び抜けた子は存在する。海を全く知らない子ども達を海に寄せる事業も大事だが、一方でトップを引き上げるような事業も大事。トップを引き上げれば裾野も広がっていくので、海と日本プロジェクトでは、これからそこに力を入れていきたいと思っている。そこで、サミットを卒業していった小学生が中学生になった時に、後輩をサポートする役割を担ってほしいので、そういった組織づくりを新しく始めたいと考えている」と話しています。

No.	3	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1525				



スーパー中学生が大好きな海の生き物を3D化！～二期生の研究発表会&修了式「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」～

都内で「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の二期生の研究発表会が、2023年3月29日に行われました。このプロジェクトは、海や3Dに興味のある中学生が最新の3D技術を活用して海洋生物の研究を行うもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

この日は、8カ月間 学んできた二期生の9名が研究成果を発表。それぞれがテーマとした海洋生物について、作成した3D作品の紹介を交えながらプレゼンしました。長谷川更紗さんが研究テーマにしたのは、「ヒカリキンメダイの発光器の位置やヒレの大きさにこだわりました」と発表したヒカリキンメダイです。「ヒカリキンメダイはそもそもの写真が少ないので、自分で水族館に行って写真を撮りに行きました。背びれの上が尖っているのは、自分で写真を撮ってみて見つけました」とこだわったポイントについて語っているように、細部まで3Dで再現しました。指導してきた講師の宮崎大学 農学部 海洋生物環境学科 村瀬敦宣准教授は「長谷川さんが素晴らしいのは、自分で材料を探しに行って、あらゆる角度、気になった角度から自分の目で本物を確認していること。この姿勢は我々と一緒」とその研究への熱意に共感しています。また、主任講師でプロデューサーの吉本アートファクトリー代表・吉本大輝さんが驚いたのが、小柳遥雅さんです。「3Dの技術者としての目線を見た時に、小柳さんは3Dでしかできないことを発表できていた」と言います。その小柳さんが研究テーマにしたのは、深海生物のラブカ。その特徴は歯で、三又のフォークのような歯が300本も並んでいるそう。「歯の特徴をわかりやすくするために、歯の一部分を切り出した3Dモデルを作成しました」とプレゼンしたように、アゴの骨の3D化だけではなく、拡大した歯の3D出力まで行いました。小柳さんは「このプロジェクトで楽しかったことは、自分の頭の中にあるアイデアを形にできたり、自分がやりたいことがやれたこと。最終目標としては、手に取って360度見られる深海水族館をつくりたいです」とプロジェクトを振り返りつつ、今後についても話しています。

本格的な海洋研究と3D技術について学んだ二期生について、日本財団の海野光行常務理事は、今後もサポートしていくそうで「これから研究したテーマの分野で、日本を背負って立つ第一人者になるんだらうなと思うことを感じさせる研究生がいた。このプロジェクトの成果は、彼ら彼女たちが自分の場所に戻って、どういう活動・アクションを起こすかにかかっていると思うので、同窓生の組織「アルムナイ組織」をつくるなど、具体的にサポートしていくような仕組みづくりにも力を入れていきたい」と語っています。

「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」では、三期生の募集も開始しています。

No.	4	エリア	全国	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1530				



目標10万種！新種の海洋生物を探すプロジェクト開始～日本財団とNekton財団による「The Nippon Foundation-Nekton Ocean Census」始動～

世界中の海で未知の海洋生物を発見するプロジェクト「オーシャン・センサス（Ocean Census）」の始動が、イギリス・ロンドンにて2023年4月27日に発表されました。このプロジェクトは、「海と日本プロジェクト」を始め、海にまつわる活動に長年取り組んできた日本財団と、海洋保全のために海洋探査を推進しているイギリスのNekton財団が協力し、立ち上げました。

海には、200万種以上もの生物が生息していると言われていますが、新種の平均発見数は1800年代からあまり変化しておらず、現在記録されているのは全体の10%程度に過ぎないそうで、生命の進化の歴史を紐解く鍵になるかもしれない生物種が、発見されないまま絶滅してしまうことが危ぶまれています。そこで、このプロジェクトでは、ダイバーに潜水艇、海中ロボットなどを使い、世界の海の表層から深海までを調査。まずは10年間で10万種の新種発見を目指しています。それを実現するのが、最新の探査技術やDNA解析の活用です。これまでは、新種の発見から登録までのプロセスに何年もかかっていました。しかし、オーシャン・センサスでは、オックスフォード大学を中心に、分類学者といった世界中のリサーチャーと連携するなどして、新種の発見・登録のプロセスを数カ月以内にまで縮めることができるとしています。日本財団の笹川陽平会長は「今 船出の時です。夢と情熱に支えられた冒険の旅の始まりです。オーシャン・センサスは、多くの情報を私たちに提供してくれ、その知見は人類の宝となるでしょう」と、その価値を語りました。また、Nekton財団のルパート・グレイ会長は「海には数十億年にもおよぶ生物の進化の歴史が詰まっています。私達がこの海について知らなすぎることは、大いなる過ちと言わねばなりません。オーシャン・センサスはこの遅れを取り戻していきます」と話しています。このプロジェクトで集められたデータは、世界中の科学者や政府関係者に共有され、海洋生物の保全に役立てられるということです。

No.	5	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1535				



海岸が映画館！？ 逗子から映画と海洋問題を発信～第12回「逗子海岸映画祭」～

神奈川県の逗子海岸で「逗子海岸映画祭」が、4月28日からゴールデンウィーク中の1週間ほど開催されました。このイベントは、2010年から始まった映画祭で、海辺にスクリーンを設置し、国内外の映画を上映するというもの。夜の上映のほか、日中からフードコートやワークショップなど、さまざまなブースも並び、楽しむことができます。

さらに、この映画祭では環境対策も実施。そのひとつが「ボトムアップクリーンプロジェクト」です。このプロジェクトは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の活動の一環として行われている海洋ごみ対策です。毎朝のビーチクリーンを始め、フードブースでも返却すると100円が戻ってくるリユースカップを使用するなど、さまざまな活動を行いました。逗子海岸映画祭の実行委員長・長島源さんは「この海という環境が気持ちいいということをまずは感じてもらいたい。それを守っていくとなった時に、実はその背景には地道な地域の人たちのビーチクリーンの活動があったりとか、海洋プラスチックの問題のことであったりとかを体感できる場をここに設けたいと考えた」と、プロジェクトの目的について語っています。環境対策としては他にも、色々な取り組みを紹介する「GREEN STATION」というブースも設置。5月1日には、三崎まぐろを取り扱うまぐろ問屋が、環境をテーマにしたワークショップを開催。講師を務めた三崎恵水産・代表取締役社長でおさかなマイスターの石橋匡光さんは「気候の変動をしっかりと見ないと魚が獲れなくなってしまう。結果的に我々がマグロを販売できなくなり、50年後には皆さんがおいしいマグロを食べられなくなる可能性がある」と話し、まぐろ漁と環境にまつわるさまざまな取り組みを紹介しました。そして、夕闇があたりを包む頃、スクリーンに明かりが灯り、来場者は映画を楽しみました。上映から環境対策まで行う映画祭の今後について、長島さんは「ゆくゆくの夢物語としては、海遊びができたり、海のワークショップができたりする常設の場を、地域の色々な活動をしている団体と連携してつくれたら」と展望を語っています。

No.	6	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1539				



コスプレイヤーが道頓堀の周辺でごみ拾い～「春の海ごみゼロウィーク2023」キックオフイベント～

大阪・なんばで「コスプレde海ごみゼロ大作戦」が、2023年5月27日に行われました。このイベントは「春の海ごみゼロウィーク2023」のキックオフイベントとして開催されました。海ごみゼロウィークとは、環境省と日本財団が、海洋ごみ対策を目的として、2019年から実施している全国一斉清掃キャンペーンです。ウィーク開始日に行われるイベント「コスプレde海ごみゼロ大作戦」は、今年初めて関西で開催。多くのコスプレイヤーはもちろん、海上保安庁やマクドナルドのスタッフ、2025年大阪・関西万博の公式キャラクター「ミyakumiyak」など、約200人が参加しました。開会式では参加者が意気込みを披露し、大阪市の朝川晋副市長は「大阪は水の都と古くから言われている。その大阪から海ごみゼロのムーブメントを起こしていきたい」と語りました。そのほかにも、ごみ拾い活動を行う各地と中継もつなぎました。そして、「ごみを拾って海を守ろう！」と高らかにキックオフ宣言を行った後、参加者は街へと繰り出し、道頓堀の周辺などでごみ拾いを実施。90リットル入りの袋で25袋ものごみが回収されたとのこと。大阪を中心に活動しているコスプレイヤー・るなちっちゃん「たくさんの方が集まって、コスプレをして楽しみながらごみを拾ってくれたおかげで、だいぶスッキリしました。嬉しいです」と感想を話し、また、4歳から活動している小学生コスプレイヤー・ほわちゃん「プラスチックやタバコのごみが多かったです。今後もコスプレをして楽しみながらみんなと一緒にごみ拾いをしていきたい」と言います。そして、環境省の柳本顕政務官は「生活ごみが川を通じて海に流れていることについて、意識を高めてもらいたい」と話し、日本財団の海野光行常務理事は「街で食い止める。最後の砦がごみ拾いなのだ」と改めて認識した」と語りました。

春の海ごみゼロウィークは、5月30日「ごみゼロの日」、6月5日「環境の日」、6月8日「世界海洋デー」の3つの記念日を含む6月11日まで、全国各地で清掃活動が行われます。

詳細は「海ごみゼロウィーク」特設サイトをご覧ください。

<https://uminohi.jp/umigomi/zeroweek/>

No.	7	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1543				



函館の灯台サウナや和歌山の灯台ホテルなどモデル事業が続々～灯台の利活用について語る「海と灯台のまち会議」～

都内で「海と灯台のまち会議」が、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として2023年6月7日に開催されました。海の道標だった灯台は、その役割が変わってきています。そこでこのイベントでは、灯台の存在意義や利活用について、さまざま分野や業種の人が集まり、語り合いました。ファシリテーターを務めた日本財団の海野光行常務理事は「新しい灯台の魅力、人と海との関係、海と地域の関係や灯台との関係を見つめ直して、新しい企画を創造してもらうためのイベント」と会議の目的について話しています。

イベントの中では、「新たな灯台利活用モデル事業」という取り組みが紹介されました。これは灯台の歴史や役割に関する調査研究、施設の整備、利活用についてのサポートを行うというもので、スタートとなった2022年度は12の地域が採択。その事例のひとつが、北海道・函館の恵山岬灯台です。登壇した俳優の大泉洋さんの兄で函館市長の大泉潤さんは「函館の発展を支えたのが灯台。市民アンケートを行ったところ、明治から昭和にかけて、灯台守と呼ばれる技術者が家族とともに灯台に住み込んで、24時間体制で灯台を守ったというエピソードには多くの市民が興味を示しました」と、調査研究の結果を紹介。灯台を軸に函館東部の自然や歴史を語る新たなストーリーができたといいます。そのほかにも、鳥取県の長尾鼻灯台を通じて地域学習を行った学生、和歌山県の潮岬灯台で「灯台のホテル化」を進める企業など、さまざま事例が紹介されました。灯台ホテルを進めるOUTDOOR TRIP株式会社の代表取締役・南畑義明さんは「潮岬灯台の耐震診断をした結果、宿にする過程の中で必ず耐震補強が必要になるとわかった。ホテル化による耐震の診断・補強によって、結果として灯台という建物を守っていくことにつながると考えている」と語っています。事例の紹介のほかにも、「灯台×フェリー」や「灯台×ご当地カード」といった新たなアイデアも提言されました。

今後の灯台の利活用について、日本財団の海野常務理事は「異分野の方々を巻き込んで、新しい灯台の未来を描いてもらいたい。また、世界に広がっていくような形も考えていきたい」と展望を述べています。そうした中、6月1日から7月7日まで2023年度の「[新たな灯台利活用モデル事業](#)」の募集が行われています。次は灯台のどんな可能性が示されるのでしょうか。

No.	8	エリア	青森県 宮城県 山形県 香川県 愛知県	カテゴリー	安全・そなえ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1547				



いま知っておくべき水難事故防止のそなえ～「溺れないため」と「万が一の対処法を身に着ける」という2つの水辺のそなえ～

ポストコロナ元年となった2023年。観光地には人手が戻ってきています。観光庁の旅行・観光消費動向調査によると、2023年1月から3月期の日本人国内旅行消費額は、速報値で4兆2,331億円とコロナ前の2019年と同水準、2022年と比較すると約80%増加となっています。また、例年、消費額は夏に向けて増加傾向であるため、今夏は海や川にも多くの人手が予想されます。だからこそ注意しなければならないと呼びかけているのが、公益財団法人 日本ライフセービング協会の副理事長／教育本部長・松本貴行さんです。「水の事故は一瞬にして起きる。溺れている人というのは、声を発することもできないし、一度起きると命に直結する、さらには重篤化しやすいという側面がある。また、溺れている人を発見したからといって、安易に救助するということが二重事故のリスクも生じる」。賑わいが戻るとみられるこの夏は、水辺の事故も増えることが懸念されています。そのため、海や川のレジャーには、「そなえ」が必要だと松本さんは考えています。そのそなえは大きく2つに分けられるようで「まず大事なのが、『溺れないための知恵・知識・情報というそなえ』。その次に、『万が一の対処法をしっかりと身に着けているというそなえ』」と松本さんは話します。

まず、溺れないための「そなえ」では、事故に至る自然的要因として最も多い「風の強さや向き、波の状態」について、天気予報などで事前を知っておくことが重要とのこと。その上で、ライフジャケットの着用が非常に効果的だそうで、「ライフジャケットを着ることで安心感を持てる。その安心感というのは、自分の活動のゆとりにつながり、アクティビティを思う存分楽しめる」と松本さんはメリットについて話しています。具体的には、浮力があることで呼吸が確保される、また、落水時の衝撃吸収や保温効果もあるだろうとのこと。海にまつわる活動を長年行っている日本財団「海と日本プロジェクト」では、富山県、香川県、徳島県、長崎県、静岡県、鳥取県、島根県にライフジャケットレンタルステーションを設置。大人はもちろん子ども用まで無料でレンタルすることができます。そして、ライフジャケットを正しく着た上で、かかとのあるアクアシューズを履くのが良いそう。さらに、「子どもが遊ぶ水域には親もまず一緒に入って、水の底が砂利なのか、ずぶずぶと入っていく砂地なのか、どこまで行くと水深が深くなるのかなど、事前に水域をチェックすることが非常に重要。さらには、浮き具や履物など流されたものがあっても追いかけてはいけないという約束事をつくるのも重要」と、松本さんは溺れないための事前のそなえについて注意喚起します。

No.	8	エリア	青森県 宮城県 山形県 香川県 愛知県	カテゴリー	安全・そなえ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1547				

2つ目のそなえが「万が一の対処法」を身につけること。そのひとつとして、「着衣水泳」の事前体験が効果的だとのこと。「着衣状態で水に不意に落ちると、通常の泳力が一瞬にして失われ、パニックになって、溺れが生じてしまう」と話す松本さんによると、前もって着衣状態で水に浮くことを実感することでパニックや溺れの防止に役立つそうです。また、もし海で事故に遭遇した場合は、すぐにライフセーバーを呼んで欲しいと言います。「溺れている人は藁をもすがる思いで掴みに来るので、安易に救助に行くということは非常に危ない」。

これから夏本番を迎える中、松本さんはこういったそなえの重要性について改めて訴えています。「子どもの不慮の事故で交通事故の次に多いのが水難事故。どうか学校の先生たちには水泳の授業を通じてセルフレスキューの術を伝えたり、あるいは保護者を対象に講習をしたりして欲しい。子ども達の命をみんなで守っていくことが最も大事だと思う。やはり水辺は色々なリスクもあるが、そのリスクだけが先行して危険だから行かないとは至らないで欲しい。最低限のそなえはしっかりと学んだ上で、たくさんの楽しい思い出を作って欲しいと思う」。

日本ライフセービング協会では、子ども達が水辺の事故防止の心構えや、安全のための知識と技能を身につけ、楽しく活動できるようにと「[e-Lifesaving](#)」という教材を展開しています。海や川に行く前にはしっかりチェックしましょう。

素材提供：日本財団「[海と日本プロジェクトin青森県](#)」「[海と日本プロジェクトinみやぎ](#)」「[海と日本プロジェクトin山形](#)」「[海と日本プロジェクトinかがわ](#)」「[海と日本プロジェクトin愛知県](#)」

協力：株式会社青森テレビ 東北放送株式会社 株式会社テレビユー山形 西日本放送株式会社 テレビ愛知株式会社

No.	9	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1551				



香川県で川の水を抜いて大清掃！～瀬戸内4県（香川・岡山・広島・愛媛）と日本財団が共同する「瀬戸内オーシャンズX」による一掃作戦～

～

香川県の宇多津町や丸亀市、坂出市など複数の市町を流れる大東川で、大規模な清掃活動が2023年6月4日に行われました。海洋ごみのおよそ8割は陸から発生したもので、川や水路をつたって流れ出ると言われています。そこで、瀬戸内海のごみゼロを目指し、日本財団と香川県、岡山県、広島県、愛媛県が協同して推進している「瀬戸内オーシャンズX」の一環として、今回ポートレースまらがめ（丸亀市）からの寄付により、日本財団と香川県が取り組みを実施しました。

全国的にも類を見ない試みとなったのが、2キロもの区間で川の水を抜いたこと。河岸は立ち入りが難しく、草にひっかかったごみが放置されるといった課題があると言います。また、多くの川はいくつもの地域にまたがって流れ、さまざまな自治体や団体に関係しています。今回は関係者が手を取り合い、水門や農業用水路などを活用して水位を下げ、河岸や川の底でもごみ拾いを行えるようにしたのです。この日、漁業関係者や農業関係者、地元自治体、消防団、ポートレース関係者、小中学校のボランティアなど約350人が参加し、2トンものごみを回収しました。参加した中学生は「陶器とかまだ使えそうなものがいっぱい沈んでいました。自覚なくたくさん捨てているのだなと気づいたので、今後は意識しながら生活しようと思います」と話しています。香川県の池田豊人知事は「ごみ問題に対する意識がもう一段高くなったと思う。非常に意義ある活動になった」と振り返りました。また、日本財団の海野光行常務理事は「権利関係や利権の問題、タイミングの問題で、なかなかごみの清掃がうまくない地域にも香川のモデルを共有したい。スムーズなごみ収集活動ができるようにこれからも瀬戸内オーシャンズXから発信できたら」と今後の展望について話しています。

No.	10	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1558				



命を救うライフジャケットの正しい着用方法～ライフセーバーが教える水難事故防止のための実践的な「そなえ」【前編】～

これから夏本番。海や川でのレジャーで気をつけなければいけないのが、水難事故。事故を防ぐためには、さまざまな「そなえ」が必要です。そのひとつがライフジャケット。「ライフジャケットはサイズがいちばん大事。そして、股紐がしっかり着いていることがポイント」と話すのは、公益財団法人 日本ライフセービング協会の副理事長／教育本部長で成城学園の教諭でもある松本貴行さんです。松本さんには以前「[いま知っておくべき水難事故防止のそなえ](#)」で、「溺れないための知恵・知識・情報」と「万が一の対処法を身に着けている」という2つのそなえの重要性について教えてもらいましたが、今回は具体的な内容について伺いました。

なぜライフジャケットでは、サイズと股紐が大事なのでしょう。松本さんにライフジャケット着用の有り・無しでどんな違いがあるのかを教えてくださいました。まずはライフジャケットを着ていない状態で落水した場合について、「落ちてから浮上するまでに時間がかかる。この間に相当パニックになると思う。また、水を飲んでしまうので、通常の落ち着きというものが保てなくなり、それが溺れに繋がってしまう」と言います。また、適正サイズではない、正しく着用していない状態で落水してしまうと、ずり上がって本来の性能が発揮されず、パニックを引き起こす要因になってしまうそうです。一方、ライフジャケットを正しく着用できていた場合は、もし落水しても、すぐに浮力が確保され、水面に顔が出るため呼吸や視界がクリアな状態になります。

では、正しく着用するためにはどうしたらいいのでしょうか。順を追って教えてくださいました。「まずは、サイズがしっかりと合っていること。子どもであれば、ファスナーやバックルを留めた時に体がサンドイッチされている、挟まれている感覚があればサイズが合っている。次にファスナーを途中までではなく、上までしっかりと締める。続いてはバックル。しっかりと密着させるために、体の横にあるバックルを前に絞るような形で締める（※バックルは前についているタイプもあります）。最後は股紐。後ろから前に持っていき、バックルに留める。そして、下に絞るような形で締める。ライフジャケットが上にずり上がらないことを確認したら完了」。このライフジャケットの着方について、子ども達に教える際にはわかりやすい合言葉があるそうで「ライフジャケサンタ・森重裕二さん推奨の『前・横・おまたのお約束！』と子ども達に教えている。ぜひ親御さんもそれを合言葉にして欲しい」。

ライフジャケットを正しく着用した後、特に子ども達には、ライフジャケットでの浮き方に慣れてもらうと良いと松本さんは言います。「例えば海では、浅瀬でライフジャケットがどれぐらい浮くのか。また、小さい子どもだと、うつ伏せから仰向けになることが難しいなどあるため、水の中での身のこなしを大人と一緒に体験しながら、徐々に慣らしていくというプロセスがすごく大事だと思う」。

しかし、事故は予期せぬところで起きるもの。そのため、ライフジャケット未着用時の対処法を学ぶことも重要な「そなえ」となります。そこで、さまざまな「浮き方」や「救助の方法」についても、松本さんに教えてくださいました。

[\(後編に続く\)](#)

No.	11	エリア	青森県 宮城県	カテゴリー	安全・そなえ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1562				



水辺の事故防止！浮いて救助を本当に待てる？～ライフセーバーが教える水難事故防止のための実践的な「そなえ」【後編】～

ポストコロナ元年の夏。海や川でのレジャーが増えると予想されます。そのため、水難事故を防ぐための「そなえ」が必要だと呼びかけているのが、公益財団法人 日本ライフセービング協会の副理事長／教育本部長で成城学園の教諭でもある松本貴行さんです。

前編では、ライフジャケットについて教えてもらいましたが、今回のテーマは「万が一の対処法をしっかりと身に付ける」。まずは、「浮いて救助を待つ」。海や川で溺れかけた時は、浮いて救助を待つのが助かるための対処法のひとつです。松本さんは「『浮く』ということは、呼吸を確保し、パニックにならないようにするための『溺れないための方法』」と言います。ただし、浮いて待つことが難しい自然環境や個性もあると松本さんは考えていて、「防波堤や岩場から落水した場合や、波が崩れているような場所で、何もせず手足を広げてじっと背浮きの姿勢で救助が来るまで待つことだけが最適解とは言えない。また、救助が到着するまで数十分ほどはかかるということを考えれば、「背浮き姿勢で待つ」とだけ教えるのは違うのではないかと考えている。学習指導要領にも『色々な浮き方を技能として学ばせること』とある。また、学校現場では、生徒が主体的に学ぶ上で、個別最適な学びを提供することが課題とされている。その中で、『浮いて救助を待つ＝手足を広げる背浮き』という学びだけでは、浮くことの本質まで習得できず、『浮くことは難しい』で終わってしまいがちになり、個別最適な学びとなっていないのではないかと感じている。実際にプールの授業でも、背浮きの姿勢をキープできる児童や生徒は少なく、3割から多くても4割程度だと言います。「これはコロナ禍で水泳学習がストップしたことも、起因していると思っている。泳ぎの苦手な子や低学年だとなおさら厳しい。プールですら沈んでしまうのに、波や流れのある自然環境で、さらには突発的な溺れという状況で、「背浮きで救助を待つ」とだけ教えるのは、ライフセーバーとしても現場の教師としても、子ども達の命に対して無責任ではないかと自身に問うことがある」と松本さんは考えています。だからこそ、事故防止へのそなえが最も大切であることを前提に、ライフジャケットの活用や「色々な浮き方」を教えることで、溺れないための選択肢を増やし、「これならできる！」という自信につなげてもらうことが、命を守るための重要なポイントになるだろうと言います。では、具体的にどんな浮き方があるのでしょうか。

■手や足の動きを少し加える

「着衣状態や浮きにくいと感じた時は、手で横に8の字（無限大の記号∞とも表現）を描くように水かき動作をする「スカーリング」を補助的に行うことで、より簡単に浮くことができる。何がなんでも背浮き姿勢で待つというよりは、手や足の動きが少し加わるだけで、もっと楽に浮けることも知っておくとよい」と松本さんは言います。また、背浮きの状態でイカのように泳ぐ「ライフセービングバックストローク」の方が、じっとしている時よりも呼吸を確保しやすいと話す児童・生徒もいるそうです。

No.	11	エリア	青森県 宮城県	カテゴリー	安全・そなえ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1562				

■ 波がある海では“立ち泳ぎ”が役立つ

さらに、波があるような海では、“立ち泳ぎ”が役立つそうです。「立ち泳ぎは、手をスカーリングで水をなでるようにし、足は巻き足や踏み足、挟み足の動作をする。波風が強い時には、この立ち泳ぎを行い、『波が後頭部・背の方向から当たるようにする』ことで、呼吸が確保されやすくなり、視界も開ける。そうすると、救助を待つ上で非常に安心だし、気持ちも楽になる」と松本さんは話しています。

■ プールや浅瀬では“ポビングジャンプ”が効果的

また、プールや浅瀬などでは水の底を蹴って浮く“ポビングジャンプ”という方法も効果的だとのこと。日本ライフセービング協会・救助救命本部の統計によると、溺水事故のほとんどは水深2m前後の水域で発生していて、波の高さも1m以下に集中しています。そのため、実は水の底を蹴れば水面に頭を出せる場合が多いのです。「まずは、ジャンプをして呼吸を確保。そして、落ち着いたところで呼吸ができる何らかの浮く姿勢をとるとよい」と松本さんは指南しています。

■ 溺れている人を発見した場合は？

では、溺れている人を発見した時は、どのような対処法があるのでしょうか。松本さんが「自分の身ひとつで救助に向かうのは非常に危険」と警鐘を鳴らしているように、鉄則は「救助者が水に入らない」こと。溺れている人は無我夢中ですがみついてきます。こうなると泳ぎに自信がある人でも、何もできず共に水の中へ沈んでしまう危険性があります。そこで、対処法としては「ペットボトルやクーラーボックスなど、周りに浮くものがないか探して、それをいち早く投げ入れる。あるいは、長い棒のようなものを差し出すことを試みる」と松本さんは言います。棒を差し出す場合は、引っ張り落とされないように、うつ伏せになるなど地面との接地面積を多くするのがポイントだそう。また、同時にいち早い“通報”も必要で、「消防や救急を呼ぶなら119番。海であれば118番も選択肢のひとつ。迷ったら119番、あるいは110番の警察でも構わない。その際、場所や状況を速やかに連絡しながらも、溺れている人を見失わないようにして欲しい。一度見失ってしまうと発見が著しく困難になる」とのことです。

こうした「そなえ」を身に着けた上で、海や川での体験は積極的に行って欲しいと松本さんは言います。「水辺は危ないと思われることのイメージだけが大きくなるのは、本意ではない。水辺の活動を通じて、自分の身はまず自分で守ることの大切さや、もっと自然環境のことを真剣に考えようといった学びが深まっていくと思うので、子ども達にはぜひたくさん関わって欲しい」。日本ライフセービング協会では、「[e-Lifesaving](#)」など、水辺のそなえを学ぶさまざまなコンテンツを発信しています。「そなえ」を正しく身に着けて、夏を安心安全に楽しみましょう。

素材提供：日本財団「[海と日本プロジェクトin青森県](#)」「[海と日本プロジェクトinみやぎ](#)」

協力：株式会社青森テレビ 東北放送株式会社

No.	12	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1569				



千葉県・御宿で聴覚に障がいを持つ人達のボディボード大会～世界一に輝いたプロもサポートする「AKEUMI Deaf BB CUP」～

千葉県の海岸で、“AKEUMI Deaf BB CUP in 第1戦 御宿「海と日本PROJECT2023」”が7月8日に行われました。Deaf（デフ）は「聞こえにくい人」のこと。このイベントは聴覚に障がいを持つ人によるボディボードの大会で、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環です。大会の目的について、イベントを主催する一般社団法人「陽けたら海へ」の代表理事・堀由美恵さんは「私自身、耳が聞こえないということで差別をされ、モヤモヤして生きてきた。その中で海と出会い、その時に海は平等なんだと思った。そこで、聞こえない子ども達にも、同じように夢と希望を持ってチャレンジして欲しいと考えた」と語っています。

大会は大人と子どもの2つのクラスに分かれ、競技が行われます。この日は風が強く、波が高い時もありましたが、現役プロもいる先生たちの指導のもと、子ども達は楽しそうに波乗りしていました。しかし、ボディボード経験も少ない子どももいる中、なぜ体験ではなく、大会形式になったのでしょうか。堀さんは「大会形式でやることによって、自分の力で勝たなくてはダメと知ってもらいたい。私もボディボードに挑戦して、ひとりの人間として今いるのだと思えた。子ども達にも同じように挑戦してもらい、聞こえないことは関係ないと思って欲しい」と言います。そのため、この大会は、一般的なボディボードの大会とほぼ同じ形式で開催しているが特徴です。「ほかのアマチュアの大会に出ても困らないように、近い形式でコンテストをやってみたいという思いがあった」と話すのが、ディレクターを務める西村優花さんです。彼女はアマチュア世界一にも輝いた経歴を持つプロのボディボーダーで、2022年からこの大会の運営に参加。「現役の選手が携わることによって、イベントのサポートはもちろん、出場する選手のサポートもできて、もっとイベントが良くなるキッカケづくりになると思った」と振り返っています。そんな西村さんは、現役選手ならではの視点でサポートしていて、そのひとつがジャッジ。普段プロの大会でジャッジを担当している人を、AKEUMI Deaf BB CUPにも起用したそうです。ほかにこの大会では、競技中の実況解説を手話で同時通訳して、聴覚障がい者も観戦を楽しめるようにするなど、デフの大会ならではの工夫もされています。

そして、大会は無事に終了。子どもと大人のクラス別に成績優秀者が表彰されました。出場した女の子は「本番は少し緊張しました。ボディボードの乗り方など、スタッフさんが丁寧に教えてくれました」と楽しい思い出になった様子。また、優勝した男の子は「みんなと一緒にやると楽しいので、もっと多くなってくれると嬉しいです」と話しています。そして、大人のクラスに以前から参加している内田麻衣さんは「海を通して、耳が聞こえなくても平等で差別もなく、心も広がる。大会に参加したことで人生が楽しくなった」と言います。

イベントの今後について、西村さんは「子ども達にボディボードを楽しんで欲しい。楽しむことや波に向かって挑戦することは、その子の人生の糧になり、経験が自信となって、その人自身をつくっていくと思うので、そういうキッカケづくりのイベントにできたら」と語っています。また、堀さんは「私たち障がいを持っている人は、可哀想と思われがち。しかし、どちらかというと、私達も出来るんだという立場になりたい。そうでありたいから、あえてスタッフも耳が聞こえない人をお願いしている。聞こえない人達は表情を読んだりでき、状況判断が早い。聞こえないことは個性であり、素晴らしい宝物をもらった立場だから、そこをもっとみんなにアピールしていきたい」という展望を描いています。

大会は、9月にも茨城県で“AKEUMI Deaf BB CUP in 第2戦 大洗サンビーチ「海と日本PROJECT2023」”が開催される予定です。

No.	13	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1572				



世界初にも挑戦！無人運航船プロジェクトの第2ステージ～「MEGURI2040」による無人運航船セミナー～

都内で日本財団 無人運航船プロジェクトMEGURI2040無人運航船セミナーが、2023年7月20日に行われました。

無人運航船とは、船内のほぼ全ての作業をAIなどが担当し、無人で運航する船のこと。今回のセミナーを開催した日本財団は、2020年に無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」を発足。2022年には第1ステージとして、世界初となる事例も含む5つの実証実験を成功させました。

今回のセミナーでは、無人運航船に関わる技術、政策などについての最新情報の発信とMEGURI2040の第2ステージについての発表を実施。セミナー前半の情報発信では、ゲストとして参加したロイドレジスター・ジャパン株式会社 カスタマーサクセス・エグゼクティブ・パートナーのルイス・ベニートさんが登壇。ロイドレジスターは、世界の船級協会の先駆けとなったイギリスの団体。ベニートさんは「韓国、シンガポール、ノルウェー、フィンランド、イギリス、これらの国々で無人運航船の実証実験が行われていますが、研究開発の最前線は大型船。こうした世界の開発競争の中で、MEGURI2040の実績は際立っている」など、無人運航船における世界の動向や標準化に向けたロードマップなどが提示されました。また、さまざまな分野の専門家によるパネルディスカッションも行われ、近郵船舶管理株式会社 三等航海士の金子辰典さんは「無人運航船の実用化で最も期待しているところは、作業負荷が軽減されること。例えば、航海当直をAIに任せることができれば、同じ時間ではほかの作業ができると思う」と現場目線での意見を語りました。また、自動運転バスを展開しているBOLDLY株式会社 代表取締役社長 兼 CEOの佐治友基さんは「国で技術やマーケットを保護し過ぎると、逆にガラパゴスになり、後から海外に輸出できない、ヨーロッパに規格でリードされるといったことになりかねない。政府、有識者、民間が組み合った時に、日本のマーケットでつくられたものが、海外にも展開できることが大事だと思う」と自動運転バスを実用化した経験からの提言を行いました。

そして、セミナー後半では、MEGURI2040の第2ステージについて発表されました。船舶や海運はもちろん、通信、商社に至るまで多種多様な51社で推進し、社会実装に踏み出します。その中で行われる実証実験では、「大型貨物船による最長9カ月の実証実験、陸上支援センターによる複数船舶の遠隔支援が、世界初の要素となる」と日本財団の海野光行常務理事が発表。そして、無人運航船仕様の船を新たに建造するほか、既存の船も活用します。プロジェクトディレクターを務める桑原悟さんは「社会実装を進めていくには、新造船だけでは成り立たない。そこで、既存船における普及の方法をいかに考えていくかが重要になる」と、その理由について語っています。また、災害時にも備えるため、移動型の陸上支援センターも設置する予定など、さまざまな試みを行うことが明かされました。MEGURI2040の今後について、桑原さんは「例えば山手線では、自動で走っている車両がある。そのことに気づいていない人もいるかもしれないが、無人運航船の社会実装も同じでいいと思っている。特別なものではないかと思っているので、使いやすいものを、ニーズをとらえた上で、こっそり入れていく世界ができればよいのではないかと」展覧を語っています。海野常務理事は「私たちが無人運航船に乗ったり、操縦できたりする場面はもう少し先。無人運航船は今の子どもたちが恩恵を受ける。そこで、その子どもたちに夢を育ててもらうための事業もやっていきたい」と話しています。そして、日本財団の笹川陽平会長は「ルールづくりまで日本が主導してやっていくだけの環境ができています。プロジェクトをぜひとも成功してもらいたい」と述べています。

No.	14	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1576				



サザエさんが社会貢献者として特別賞～「第59回 社会貢献者表彰式典」

都内で「第59回 社会貢献者表彰式典」が、2023年7月31日に行われました。この式典は公益財団法人 社会貢献支援財団による中心的事業で、日本財団の助成を受けて毎年実施。社会貢献支援財団の安倍昭恵会長が「社会課題の解決を、行政だけに頼るのは難しい現状に見て見ぬふりをできない皆さんが行動を起こしている」と式典冒頭の挨拶で話したように、社会の各分野で功績を挙げた人を表彰しています。

今回は133の推薦の中から、委員長の内館牧子さんを中心とした表彰選考委員が選考。その結果、30組が表彰されました。日本財団の笹川陽平は「社会の中でなくてはならない活動を受賞者・団体が行っている。その取り組みを日本の社会全般に、あるいは世界にどのように広げていくかが大きな課題。私自身もそのためにまだまだ働かないといけないと実感した」と感想を述べました。

その受賞者の中で、初の快挙を達成したのが「フグ田サザエ」です。1971年の開始以来、初めてキャラクターが表彰されたのです。サザエさんは、2022年に日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の特別推進パートナーに就任。海について考える機会の創出に貢献している点が評価され、特別賞を受賞しました。海と日本プロジェクトの創設から関わっている日本財団の海野光行常務理事は「サザエさんの国民の認知率は、ある民間企業の調査によれば97%に達しているという。誰もが知っているサザエさんのようなキャラクターが、海へ人を繋ぐような結節点となってくれるのはすごくありがたい」と、受賞の喜びを語りました。サザエさんファミリーや長谷川町子美術館の川口淳二館長は、8月中や今秋など、今後も海と日本プロジェクトのさまざまなイベントに参加するそうです。

No.	15	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1579				



子ども達がサンゴを守るお仕事を体験！～静岡県沼津市で行われた「こどもわーく 海のお仕事プロジェクト」～

静岡県沼津市でこどもわーく 海のお仕事プロジェクト「サンゴ保全のお仕事をしよう！」が、2023年7月29日に行われました。このプロジェクトは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として開催されているもので、子ども達に海のお仕事を通じて、海の大切さや地域の魅力を発見してもらう取り組み。全国各地で色々なお仕事体験イベントを実施しています。

この日、行われたのは「サンゴ保全」のお仕事体験。講師を務めたのは、平沢マリセンターのセンター長でダイビングインストラクターの朝倉一哉さんです。「東海大学海洋学部、伊豆・三津シーパラダイス、海洋調査をする企業、漁協などと情報交換しながら海の中に潜ってサンゴの保全活動をしている」と話すように、平沢マリセンターでは、さまざまな団体と連携しながら、サンゴを守るために「海のパトロール」「サンゴについて海藻や砂を取る」「サンゴの産卵調査」「サンゴの植樹」などを行っています。子ども達は朝倉さんの指導のもと、造礁性サンゴの分布北限域を守るお仕事を体験。まずは座学で、サンゴや海的环境などについて学習。その後、早速シュノーケリングの練習。サンゴは足がつかない水深にあるので、シュノーケルの使い方など基本からしっかり学びました。そして、いよいよサンゴがある地点へ。子ども達はサンゴを守るための「海のパトロール」を実施。サンゴのほかにも海藻や魚など、さまざま生き物を観察。朝倉さんは海底に潜ってナマコやウニなども見つけてくれました。体験した子どもは「サンゴ礁を初めて見ました。海藻の高さとかも間近で見ると発見があったし楽しかったです」、「サンゴの周りにヘラヤガラみたいな魚やソラスズメダイなど、いっぱい魚がいて、水族館でしか見たことがなかったから間近で見れてすごく嬉しかったです」と大満足の様子でした。

さらに、海のパトロールの後は、「サンゴの植樹」を体験。折れてしまった枝をそのままにしておくと、海底で砂に埋もれるなどしてしまい、光合成ができなくなって死んでしまうそう。そこで、折れた枝をブロックに付着させて苗床をつります。すると、再び立派に成長すること。こうしてサンゴ保全のお仕事を無事に終えた子ども達は、最後に名刺とお給料をもらいました。今回の「サンゴ保全のお仕事をしよう！」を通して、朝倉さんには伝えたかったことがあると言います。「写真とか動画で海の中を普通に見ることができる時代。しかし、実際に入ってみると全く違うと思う。サンゴのある海ってこうなんだと感じたら、そこから自分がどうしていきたいのか、世の中がどうなっていくのかがいいかということ、自分で自然に導き出してほしい。そして、感じたことを周りにどう伝えていくのかを考えて欲しい。例えば、海は凄いかから今度一緒に行こうよとか。そうやって少しずつ海に遊びに行くことを広めていって欲しい」。

こどもわーく お仕事プロジェクトは、8月までさまざまな体験イベントを開催中です。

No.	16	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1583				



海と人をつなぐ「御前崎 渚の交番」～マリンスポーツで子ども達の健全な心を育む～

「渚の交番」が全国各地に設置されています。渚の交番とは、日本財団が推進している豊かな海を次世代に引き継ぐ地域づくりの総合拠点。2009年に宮崎県で初めて開設され、2023年8月15日現在は全国14カ所に設置されています。

静岡県にある「御前崎 渚の交番」は、2番目に開設されました。運営しているのは、一般社団法人 御前崎スマイルプロジェクトで、「海と人をつなぐことを第一の目的として活動している」と代表理事の石原智央さんは言います。日本ウインドサーフィン協会の理事長でもある石原さんは、以前から日本財団の海に関する活動を手伝っていたそう。そういったつながりがキッカケで、地元の有志とともにプロジェクトを立ち上げ、2014年に御前崎 渚の交番が誕生しました。その御前崎スマイルプロジェクトでは、「海の安心安全事業」「自然環境保全事業」「青少年健全育成事業」「海と人をつなぐ事業」という4つを柱に活動しています。その活動の一環として行われているのが、アクティブマリクラブでのウインドサーフィン体験です。石原さんが「マリンスポーツを通じて、自然の大切さやごみ問題を知ってもらおう。また、ウインドサーフィンの練習によって、子ども達に健全な心を育んでもらおう」と語っているように、このクラブは青少年の健全育成事業と自然環境保全事業の2つをあわせ持った内容だそう。参加した子ども達は「帆に風がいっぱい入ってきて、遠くまで行けるのが楽しかった」「ひとりで乗れたのが初めてで、速く動かせたのが楽しかった」と大満足の様子でした。御前崎 渚の交番では他にも、海洋体験の受け入れやビーチクリーンイベントを行ったり、海上パトロール、マリンスポーツ競技の安全啓蒙など、さまざまな活動を行っています。それらの活動を通じて、石原さんは「海の中で遊ぶ楽しさ、自然の大切さを、子どもから大人までわかってもらいたい」と想いを語っています。

アクティブマリクラブは9月3日まで行われる予定です。

No.	17	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1587				



お相撲さんとサザエさんがビーチクリーン～片瀬東浜海水浴場で活動する「海と日本プロジェクト」と「海さくら」～

江の島のすぐ近くにある神奈川県片瀬東浜海水浴場で、「どすこいビーチクリーン2023」が8月26日に行われました。このイベントは、NPO法人 海さくらと日本財団が海と日本プロジェクトの一環として実施しました。

「どすこいビーチクリーン」がスタートしたのは2015年から。海岸には、街や川から流れてきたごみや釘などが落ちていて危険なため、子ども達が安心・安全な砂浜で遊べるようにと、力士とのビーチクリーン活動を行っています。今回は大鵬道場 大嶽部屋所属の力士たちが参加。コロナ禍の影響もあり、今年が4年ぶりの開催となりました。さらに、海と日本プロジェクトの特別推進パートナーに就任しているサザエさん、そしてマスオさんも加わりました。参加したのは、アニメのオープニングで「どすこいビーチクリーン」が放送されたのがキッカケだそう。そして、清掃活動の後には、ビーチクリーンに参加した子ども達と力士が相撲を取りました。夏休み最後の週末に、子ども達は楽しい思い出ができたようです。

一方、同じ片瀬東浜海水浴場で、7月から日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として開催されているのが、「ちびっこBEACH SAVERパーク」です。「その名の通り、ビーチを守る子ども達の遊び場ということで船のアスレチックになっている」と語るのは、NPO法人 海さくらの白石あかりさんです。近年、子ども達の海離れが加速。日本財団の調査でも、子ども達の約4割が「海に親しみを感じていない」という結果に。そこで、「その調査結果に驚いた。そこで、子ども達に海に遊びに来てもらい、海に興味を持ってもらい、海を好きになってもらいたいという想いでこのパークをつくった」と白石さんはキッカケを話しています。

2018年からスタートした「ちびっこBEACH SAVERパーク」は、子ども達にまず5分間のビーチクリーンをしてもらい、その後、紙芝居で海洋ごみについて学習。それらを終えた子どもからアスレチックに入場できるようになっています。このアスレチックは、子ども達の成長発達を応援するという目的もあり、楽曲「パプリカ」のダンス監修や「おかあさんといっしょ」の体操コーナーなどを担当した国立大学法人山梨大学の中村和彦 学長が提唱する身体づくりに必要な動作を体験できると言えます。その動作は36あり、アスレチックで掴む・登る・ぶら下がるなどの34の動作が体験でき、残り2つは海遊びとなっているとのこと。

このパークをつくった海さくらは、江の島周辺のビーチを拠点に、2005年から精力的に活動しています。そのため、今では「近所の人達も毎朝ビーチクリーンをしてもらえるようになり、海さくらとしてはとても嬉しい影響だと思っている」と白石さんは言います。そんな海さくらの今後について白石さんは「ちびっこBEACH SAVERパークは、来年も継続できれば実施して、子ども達の笑顔をたくさん見たい。ビーチクリーンも引き続き皆さんに思いっきり楽しんでもらえるような活動をしていきたい」。ちびっこBEACH SAVERパークは9月3日まで毎日オープンしています。

No.	18	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1590				



海の自由研究をインフォグラフィック化！～小学生と美術専門学生がタッグ「第3回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～

東京タワーの近くにある機械振興会館で「第3回 海洋インフォグラフィックコンテスト」が、2023年8月19日に行われました。このコンテストは、小学生が作成した海の自由研究レポートを全国から募集。選抜された20人が美術専門学生とタッグを組み、レポートをわかりやすく視覚化したインフォグラフィックをつくるというもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として実施されました。7月から打ち合わせを重ね、作品をつくり上げてきた児童たちと美術学生。この日はコンテストの本番。その作品について、タッグを組んだ2人が想いを乗せてプレゼンしました。その結果、10組が表彰。その内の1組が田中夢乃さんと矢野杏奈さんです。「海洋気象観測船は、さまざまな機械を使って、海水温や海洋汚染などの観測をします。2021年の軽石漂着もいち早く発見しました。そのため『動く海の情報屋さん』と呼べると思います」と、お揃いの帽子を被って発表した2人は、「海洋気象観測船がつなぐ海と私たちの暮らし」をテーマ作成。台本を一切見ずにプレゼンした小学2年生の田中さんは「気象科学館だったり、国立科学博物館の海展に行ったりといっぱい勉強して、100回ぐらい発表の練習をしました」と話します。矢野さんは「1枚のポスターとしてのバランスや色など、色々工夫しました。特にまとめの部分は、どれぐらいの大きさをイラストを配置して、どういう形で最後に矢印を持っていかを最終日まで話し合ってた」と振り返っています。

そして、最優秀賞に選ばれたのは、石野立翔くんと中山慎吾さんのチームです。石野くんがつくったサメの骨の標本つき帽子を被って発表した2人は、「サメ食文化を守りたい～利用するサメと守るサメを区別しよう～」をテーマに作成。石野くんは、サメ食文化を取り上げた理由のひとつとして「いま香港では、サメに関する取り締まりを強化しています。政府が呼びかけ、香港中のホテルやレストランからフカヒレのメニューが消えているのが現状です。中国4000年の歴史がある食文化を無くしていいのかわ、ノーシャークだけでサメが守れるのかと疑問に思いました」と話します。そして、中山さんもまた、サメやエイの絶滅危惧種が増えていくという題材を研究したそうで、同じものを感じ、石野くんとタッグを組もうと思ったとのこと。受賞後、石野くんは「慎吾さんが選んでくれていなかったら、受賞できなかったと思います。本当にありがとうございます」とお礼を言い、中山さんは「お互い大人になって、また同じ仕事ができたらいいなと思います」と語りました。

そのほかにも「未利用魚」や「着衣水泳」、「カーボンニュートラル」に至るまで、多種多様な海の活動や問題をテーマに、インフォグラフィック化した作品が披露されました。その作品をつくった彼らについて、審査委員長を務めた日本財団の海野光行常務理事は「このコンテストに参加したことで、今後、海を専門にしてもしなくとも、“海ごころ”が彼らの頭の片隅にあると思う。将来、また出会った時には、その海ごころを引き出して、何か海のために動こうと繋がっていければ嬉しい」と期待を述べました。

今回インフォグラフィック化した20のポスターは、今後、羽田空港に展示される予定です。

No.	19	エリア	全国	カテゴリー	海ごみ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1594				



コスプレイヤーが横浜を大清掃！～日本財団と環境省による「秋の海ごみゼロウィーク2023」キックオフイベント～

横浜で「コスプレ de 海ごみゼロ大作戦2023」が、2023年9月16日に行われました。このイベントは「秋の海ごみゼロウィーク2023」のキックオフイベントとして開催。海ごみゼロウィークとは、日本財団と環境省が海洋ごみ対策を目的として、2019年から実施している全国一斉清掃キャンペーンです。

全世界各所で地球を一斉にキレイにする日である「World Clean up Day」から始まる「秋の海ごみゼロウィーク」。この日、横浜でのイベントには、コスプレイヤーをはじめ、日本マクドナルドや海上保安庁、横浜市長などが参加。さらに、北は青森県から南は鹿児島県まで、ごみ拾い活動を行う全国の7会場（青森、山梨、福井、京都、鳥取、大分、鹿児島）とも中継をつなぎ、連動しました。

そして、「ごみを拾って、海を守ろう！」の掛け声で清掃活動がスタート。参加者は横浜の街へと繰り出し、ごみ拾いを行いました。元陸上競技の日本代表という異色の経歴を持つコスプレイヤーの運弥さんは「コスプレをする時に景観もすごく大事。作品づくりのためにこのきれいな背景も含めて、ごみ拾いをして大事にすることをやってみたいと思って」と参加したキッカケについて話します。横浜生まれ横浜育ちのコスプレイヤー・うさこさんは「発信力のある私達が、こういうイベントに参加して、コスプレイヤーもごみ拾い活動をしていることを知ってもらいたいです。また、コスプレイヤーには、街をキレイにしたり、社会貢献の活動に参加してもらいたいです」と語っています。400人ほどが参加したこのイベントでは、56kgものごみが回収されたと言います。人気マンガ「ONE PIECE（ワンピース）」の主人公「モンキー・D・ルフィ」のコスプレ姿で参加した日本財団の笹川陽平会長は「コスプレイヤーは、社会問題解決への意欲を持った人達で、ごみ拾いの最前線で活躍しているのは、世界的な広がりのために大変プラスになると考えています」と話しています。そして、海洋ごみ対策について、横浜市の山中竹春市長は「海洋ごみという世界的な課題の解決には、一人ひとりの努力の積み重ねが必要」と言い、環境省の滝沢求副大臣は「清掃活動に参加する皆さんで、心をひとつにして一丸となって、キレイで豊かな海、そして、豊かな未来をつくるために、一緒に取り組んでいきましょう」と協力を呼びかけました。

秋の海ごみゼロウィークは9月24日まで。期間中、各地で行われている清掃活動に参加してみたいかがでしょう。

No.	20	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1597				



ミシュランシェフが伴走！ 学生が海と食を学んで実践するプログラム～Chefs for the Blueによる「THE BLUE CAMP」【前編】～

東京と京都で、学生たちが運営しトップシェフがサポートするポップアップレストランが、2023年8月11日から19日までオープンしました。これは、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環として、「Chefs for the Blue」が行ったプログラムの集大成です。

Chefs for the Blueとはトップシェフが集まった団体で、東京と京都にチームがあり、合わせて40人以上で構成。代表理事を務める佐々木ひろこさんが「影響力のあるシェフ達が集まって、海の未来を考えようという趣旨でさまざまな活動を行っている」と話すように、海と食をテーマに啓発活動や商品開発などを行っています。

彼らが始めたのが、学生と一緒に海の未来を考える「THE BLUE CAMP」。このプログラムは、東京と京都で実施。選考された学生たち16人が、Chefs for the Blueに参加している一流シェフの伴走のもと、海と食に関する座学、漁場でのフィールドワーク、レストランでの研修を経て、最終的に“店舗経営の全てを行うポップアップレストラン”をオープンするというものです。佐々木さんは「これまでさまざまな活動をしてきたが、対象は大人だった。未来の海と一緒に生きていく世代である若者と一緒に、何かプロジェクトを動かしてみたいという想いが長くあった」とキッカケについて語っています。

6月に行われた東京チームのフィールドワークでは、静岡県で定置網漁業を見学。定置網は、魚の入網を「待つ」漁法。獲りすぎないだけでなく、網目の大きさを調整し、稚魚などを獲らないよう心がけていることを学びました。そのほかにも、スズキ漁を行っている漁師などからサステナブルな漁業について学習するなど、海の現場で携わる人の想いを肌で感じました。

そして、東京チームがレストランをオープンする日まで約1週間。この日は、レストラン研修が行われました。参加した小山卯月さんと藤野佑一朗さんが、ミシュラン一つ星を持つフレンチの名店「sincere（シンシア）」で、石井真介シェフの指導のもと、ポップアップレストランで提供するブダイの三枚おろしやラグーバスタづくりなどを行いました。ブダイは、多くの地域では食用として活用されていない“未利用魚”。一方で、魚の住処やエサとなる海藻が激減する「磯焼け」の原因にもなっている魚でもあります。また、ラグーソースに使われているパショカジキやメジナなどは、一般に流通が少ない“低活用魚”。座学や漁場でのフィールドワークで知り、学んだ内容をメニューに生かしているのです。試作品を食べたふたりは「魚の食感が残っていておいしい」と大満足の様子。実はこのふたり、年恰好は同じでも全く違うフィールドからやってきました。小山さんは調理専門学校で料理人を目指していて、藤野さんは東京大学農学部で生態学を学んでいます。普通に生活していたら、交わる機会はなかったかもしれません。THE BLUE CAMPのコーディネーター・須賀智子さんは「多様なメンバーで組んで、海の現状を伝える。そのために大きな問題を自分たちが解けるサイズに問いを立てて、解決策を導き出すことに、彼らはとても心を砕いてきた」と、その成長に目を細めていました。

そして、東京チームの1期生8人は、さまざまな学びと準備を経て、いよいよ3カ月間の集大成となるポップアップレストランの開店へ。

No.	21	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1601				



ミシュランシェフが伴走！ 学生が海と食を学んで実践する「THE BLUE CAMP」～3カ月間の集大成・ポップアップレストラン開店【後編】～

東京と京都で、学生たちが運営しトップシェフがサポートするポップアップレストランが、2023年8月11日から19日までオープンしました。これは、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環として、「Chefs for the Blue」が行ったプログラムの集大成です。

Chefs for the Blueとはトップシェフが集まった団体で、海と食をテーマに啓発活動や商品開発などを実施しています。その彼らが始めたのが、学生と一緒に海の未来を考える「THE BLUE CAMP」。東京と京都それぞれで約3カ月間行われたこのプログラムは、当代一流のシェフたちがメンターとなり、食を通じて海の未来を考えるという内容です。

その締めくくりとなったのが、学生たちが店舗経営の全てを行うポップアップレストランです。“海の未来を考える”がコンセプトだけに、東京チームはお客を迎え入れるところからこだわり、「私達が学んだ海は想像していたよりも悪化していました。この目を見たことは私達だけの思い出にするにはもったいない、皆様に共有したい、そういった想いから集大成としてレストランを始めることにしました」とホール担当が東京チームの想いと海の現状を伝えました。その後、コースで料理を提供。1品目はスズキを使った前菜で「未来を見据える船橋の漁師・大野さんが届ける旬のスズキとレモングラス、ライムのタルタル仕立てグリーンカレーヴィネグレット」。東京チームは、東京湾で資源管理型漁業の推進に取り組むスズキ漁師たちとの交流を深めました。そこで、ホール担当で東京大学に通う魚谷和史さんと東京海洋大学の渡部礼音さんは「大野さんは、サイズが小さいものや卵を持ったスズキは獲らないことをはじめ、資源管理に積極的に取り組まれている漁師さんです」、「ちなみに、とても熱い方で好きな色は赤です」など、海の未来を見据える漁師たちの存在を料理とともに伝えました。また、東京チームのメンターを務めたミシュラン一つ星「sincere（シンシア）」の石井真介シェフは、東京らしさにもこだわったと言います。「スズキは最も東京湾らしい魚なので、最初に押し出した。今回の大きなテーマである環境やサステナブルという点で、スズキ漁をしている大野さんは、すごくサステナブルな漁業をしている」。

続いて、2品目は「魚の生命力に魅せられた仲間人・長谷川さんが惚れ込んだ4種の「海の原石」ラグー・パスタ」。レストラン研修で試作した“低活用魚”を使ったひと皿です。キッチン担当でエコール社 東京に通う小山卯月さんは「食感のコントラストをつくるために、パショウカジキはミンチにし、そのほかのコロダイ、マツダイ、メジナは包丁で角切りにしました。そういった食感の違いもつくりたりして、魚と思わせない意外性のあるパスタを考えました」とこだわりについて話します。こうしたメニューを企画・実現するために、学生たちはさまざまな議論を重ねてきました。石井シェフはそうした彼らの想いを受け止めつつ、形にするには何が必要かを考えてもらったと言います。「あれもやりたい、これもやりたいと全部やりたいとなるが、今回のテーマを考えた上で、最終的には良い形に削ぎ落せたと思う」。

No.	21	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1601				

その後、3品目の「不鯛・醜鯛・舞鯛…？ユニークなお魚ブダイのカダイフ揚げ プールブランとラタトゥイユを添えて」、4品目の「メのごはん 本日のお魚のスープで」も想いや学んだこととともに提供。4品すべてが、これまでに学んだ海や魚の現状、漁師や仲買人との交流から生まれた彼らなりの“海の未来を考える”メニューとなりました。こうして東京チームは、6日間の営業で120人以上をおもてなし。東京大学3年の藤野佑一朗さんは「この3カ月を通して、海の現状とレストランの世界を知れたというのが自分の中で大きい。これからの進路選択の手助けになりました」と振り返っています。また、ホール担当の渡部さんは「私は水産系の大学生なので、海の問題を伝えたいなどが先行していました。一方で、料理人はこういった料理をやりたいとか、おいしさを伝えたいと。そういうところでぶつかりもあり、悩んだりしました」と、多種多様な学生が集まったからこそその苦労があったと言います。キッチン担当の小山さんは「メンバーの中で一番怒られました。でも、最後まで逃げずに立ち向かったので人間として成長できたと思います。THE BLUE CAMPは、ただ料理が上手くなったとか技術的なものより、心の成長などシェフとして必要なものを学べた感じがしました」と、自分が成長したことを実感したようです。そして、石井シェフとともにサポートし続けてきた「No Code（ノーコード）」の米澤文雄シェフは、ここでやり残したものの中にこそ彼ら自身の未来があると言います。「本当はもっと伝えたいことが彼らの中にあると思う。それを持ってこれから社会に出て、伝道師となり、色々な方に伝えてくれればという期待がある」。また、日本財団 海洋事業部 海洋環境チームの溝垣春奈さんは、このプログラムについて「それぞれが恐らく違う職業に就いて活躍していくと思う。そういった彼らに、海を大切にするという種を植えているような事業であることに意義がある」と語っています。

THE BLUE CAMPについて、キャンプ長を務めたChefs for the Blueの代表理事・佐々木ひろこさんは今後も続けていきたいと考えています。その上で、「THE BLUE CAMPを始め、どの活動にしても、『日本の豊かな海を取り戻したい』、『私達の積み重ねてきた食文化を未来に繋いでいきたい』という想いを持って、さまざまなプロジェクトを続けていく」。

No.	22	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1606				



デザインから海を知る・考える～東京・六本木で 開催中の「第二回 国際海洋環境デザイン会議」 ～

東京・六本木で「第二回 国際海洋環境デザイン会議」が、2023年9月30日から行われています。このイベントは、海の可能性や魅力、深刻化する海洋問題などを「デザイン」から知り、考えるというもの。海洋教育とデザインを融合しながら実践的なプログラムを提供している一般社団法人3710Lab（みなとラボ）と、海と日本プロジェクトをはじめ、さまざまな海にまつわる事業を展開している日本財団が共同で開催しています。

3月の初回に続き、2回目となった今回のテーマは「OCEAN BLINDNESS — 私たちは海を知らない—」。開催初日には、日本財団の海野常務理事が登壇し、3710Labのディレクター・佐藤久美子さんとトークセッションを実施。海の魅力や課題、デザインとのつながりなどについて話し合いました。また、グッドデザイン賞の審査委員長を長年務めた経歴を持ち、世界各国の有名ブランドのデザインなどを手掛けるデザイナー・深澤直人さんによる公開ワークショップも開催。参加者たちは、海について考え、デザインしてきた作品を発表しました。例えば、デザイナーの青沼成美さんは「海の色」に注目。富嶽三十六景をモチーフにしつつ、海の色を緑色にした作品をつくり、プレゼンしました。そして、深澤さんと「青は綺麗なのに緑はなぜ汚いのか」といった意見を交わしました。会場には、このワークショップでつくられた作品も展示されています。そのほかにも、海洋環境デザインのパネル展示や自らが海になり感覚を取り入れる体感型の展示も行われています。海とデザインについて海野常務理事は「デザイナーには、どういう形で社会課題を解決していくのかという視点を頭の片隅に入れてもらいたい。そうすることで、一般の方々への波及効果が高いと気づいてもらいたい。また、海はまだ何もわかっていない。そういった部分では、デザイナーが活躍する余地や可能性が無限にあるので、海の世界にドンドン入ってきてもらい、デザインをつくって欲しい」と語っています。

「第二回 国際海洋環境デザイン会議」は、六本木のアクシスギャラリーにて10月9日まで行われています。

No.	23	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1610				



サザエさんと元日本代表アスリートとよゐこ・濱口がコラボ！～イトーヨーカドーで海と日本プロジェクトとサザエさんがイベントを開催～

都内のイトーヨーカドー木場店で、海づくりのスペシャルイベントが、2023年9月30日と10月1日に開催されました。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環で、海の魅力や海洋問題について知ってもらおうと行われたものです。

2日間に渡って行われたイベントでは、海をテーマにした生演奏会から海洋ごみとして問題になっている漁網をアップサイクルした商品の展示販売会にワークショップなど、さまざまなプログラムを実施。さらに、日本財団「海と日本プロジェクト」の特別推進パートナーに就任しているサザエさんともコラボ。サザエさん一家とのグリーティングや、女優の秋吉久美子さんがナレーションを担当し、「サザエさん」の原作4コマ漫画の中から海に関連したストーリーを紹介する「見る・聞く！サザエさん 4コマ劇場」なども行われました。

そして、最終日のステージには、素潜りでお馴染みのよゐこ・濱口優さん、バレーボールと海の大切さを伝えている元日本代表の山本隆弘さん、長谷川町子美術館の館長・川口淳二さんが登壇。海とサザエさんをテーマにしたトークセッションやクイズ大会も行われ、会場は多くの人で賑わいました。また、この日は、全国のイトーヨーカドー店舗で集まった海と日本プロジェクト支援募金の贈呈式も実施。式に臨んだ日本財団 海洋事業部 中嶋竜生部長は「イトーヨーカ堂の従業員の皆さん、そして、お客さんからの寄付なので、その皆さんに対して、海と自分との生活をより身近に感じてもらう良い機会になった。以前からイトーヨーカ堂、セブン&アイ・ホールディングスとは、さまざまな協議をしているので、寄付金を活用して、日本の子ども達と海をつなげる活動を一緒にやっていきたい」と今後の展望を語っています。

No.	24	エリア	全国	カテゴリー	未分類
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1615				



日本代表が決定！世界初「スポGOMIワールドカップ」～新宿で日本STAGEが開催～

東京・新宿で「スポGOMIワールドカップ2023 日本STAGE」が、10月9日に行われました。スポGOMIとは、ごみ拾いとスポーツを掛け合わせた日本発祥の競技。2008年に誕生したこの競技が今年は、海洋ごみ対策を行う日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の活動の一環として、史上初のワールドカップを開催中です。

この日は、日本代表決定戦。全国47都道府県で実施された国内予選を勝ち抜いたチームが、新宿に集結しました。「秋田の皆さんの想いを胸にごみ拾いをして、1位になりたいと思います」、「岐阜県代表として来ているので、恥じないプレーをして優勝したいです」と、各チームは意気込みを語ります。

そして、いよいよ競技スタート。北京五輪でメダルを獲得した競泳元日本代表で、スポGOMIアンバサダーの松田丈志さんが先導する「CHANGE FOR THE BLUE！」の掛け声とともに、3人1組の各チームは、新宿の決められたエリア内に散らばり、ごみ拾いを行いました。スポGOMIの勝敗は、制限時間内に拾ったごみの量と質で決まります。同じ重さのごみを集めても、たばこの吸い殻が高得点というように、ごみの質に応じて得られるポイントが異なるのです。そのため、どのごみを重視して拾うか、ルート設定といった作戦も重要になります。また、この競技は、誰でも参加でき、どのチームにも優勝の可能性があるのが特徴です。日本STAGEに出場したチームも、高校の部活仲間や職場の同僚と、その構成は多種多様。選手宣誓を務めた群馬県代表は、モーターボート選手の石岡翔太さんが妻子と家族3人でチームを組んでいました。その各チームは、朝から雨に見舞われ、厳しいコンディションとなりましたが、日本代表を目指して奮闘。60分間のごみ拾いを終えると、奈良県代表のチームは「奈良STAGEの時には、こんなにタバコの吸い殻が落ちていなかった」と東京と地元の違いについて語り、高知県代表のチームは「植木の中に落ちていて、こんな所にあるがやって感じてでした。若者が参加しようと思えるようなごみ拾いがあったらいい思っていて、スポGOMIはゲーム感覚で楽しかったです」と振り返っています。また、ゲストとして参加したスポGOMIアンバサダーで元AKB48の山内鈴蘭さんは「楽しかったというのが率直な感想。ごみ拾いの最中、地域の方が話しかけてくれましたが、ごみ拾いをする姿を見て、周りの人達が感化されていくといいなと思います」と語っています。

約140人でのごみ拾いの結果、500kgを越えるごみを回収。そんな中、日本代表を勝ち取ったのは、新潟県代表の「スマイルストーリー」です。このチームは4381.9ポイントを獲得。拾ったごみの総重量は37.58kgと2位のチームに20kg以上も差をつけて優勝しました。勝因についてスマイルストーリーは「私たちは普段、海と川でごみ拾いをしている。そのため、歩いているだけでどこにごみがあるか見えるので、勝因は日頃から鍛えている嗅覚です」と語っています。そして、本大会に向けて「ここまで来たら自分たちの力を試してみたいので、世界チャンピオン目指して頑張りたいです」と意気込んでいます。

No.	24	エリア	全国	カテゴリー	未分類
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1615				

ワールドカップ本大会は11月22日に開催予定で、世界各国の代表が東京に集結します。スポGOMIの生みの親である馬見塚さんは「スポGOMIは、遊び半分の社会貢献活動と言われた時代もありました。でも、15年目でまさかワールドカップまで開催できるとは思ってなくて、今でも信じられないぐらいです。日本STAGEでこれだけ盛り上がったので、本大会も盛り上がることは間違いないと思います。自分自身も楽しみたいです」と語っています。そして、このワールドカップを企画した日本財団の海野光行常務理事は「各国の代表が一堂に会してごみ拾いを行い、それが全世界に配信されると、その自国の代表の頑張りを目にする人達が海洋ごみ問題を知り、『自分も何かアクションを起こさないと』という心持ちになるはず。そんな自分事化してくれるキッカケにワールドカップがなってくれたら」と、スポGOMIワールドカップを通じて伝えたい意義を話しています。

No.	25	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1617				



愛媛県が日本一！高校生が缶詰を開発する全国大会～LOCAL FISH CAN グランプリ 2023～

都内で「LOCAL FISH CAN グランプリ2023」が、10月8日に開催されました。この大会は、全国の高校生が獲っても売れなかったり、食害をひき起こしたりする地域の「課題魚」を食材にして、オリジナルの缶詰を開発するというもの。2021年から日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。今年度は57のチームから応募があったそうです。

この日は、決勝大会。選抜された9チームが出場し、地域の海と魚の課題、開発してきた缶詰などについてプレゼンしました。その結果、「地域巻き込み賞」とコミュニティサイトでの活動と発信力を表彰する「缶カツ賞」のダブル受賞となったのが、熊本県立天草拓心高等学校です。芝居形式も取り入れたプレゼンの中で、「5年前、地元の漁師さんから『キビナゴが獲れすぎて困っている。何とか加工してくれ』と依頼を受け、味付け缶詰を開発しました」と発表したように、この高校は以前から缶詰開発を実施していました。今回の大会では、アサリの食害問題を引き起こしている魚の“キチヌ”を使って、中華あんかけ缶詰を開発。「あんかけをつくる時に、とろみをつけるために片栗粉を入れましたが、おいしく食べやすいものをつくるために、濃度が何%がベストかをごわかりました。12月にはグランメッセ熊本で販売会を実施するので、そこで色んな人にチヌのことを知ってもらいたいです。また、将来的には宇宙食にもできたら」と語っています。そして、最優秀賞に輝いたのは、愛媛県立長浜高等学校です。この学校には水族館があり、生徒が世話と運営を実施。毎月第3土曜日には一般公開も行っていて、人気のイベントは「ハマチの輪ぐりショー」だそう。ハマチは出世魚で大きくなるとプリと名前を変えますが、この学校が大会でテーマとしたのが、ゆかりのある「プリ」。愛媛県ではプリの養殖が全国3位となっていて、食用として利用されていない「プリの中落ち」を使い、缶詰を開発しました。実はこのチームは、昨年と同じテーマで出場し、「プリの骨が少し硬い」という指摘を受け、受賞とはなりませんでしたが、そこで、今年こそはとリベンジに燃えていたのです。今大会では、試行錯誤の結果、酢を使って骨を柔らかくすることに成功し、見事グランプリを獲得しました。長浜高校は「協力してくれた缶詰会社にも『骨を除いたら楽なだけだね』と言われましたが、骨が入っているのが私達のアイデンティティでもあるし、おいしいと感じていたので、諦めずに模索してよかったと思います」と振り返っています。今後は災害備蓄品として、地元の大洲市に提案するそうです。審査員を務めた缶詰博士の黒川勇人さんは「今回の大会で強く思ったのは、昨年の大会で審査員から『この部分をこうした方がおいしくなる』といったアドバイスを素直に受け入れて、今回の開発に生かしてくる学校が多かった。そういう生徒を見ると、将来どの業種・業態に進んでも、この体験を活かしてきちんとした仕事ができると思う」と語っています。また、同じく審査員を務めた日本財団 海洋事業部 海洋環境チームの西井諒さんは「『シンググローバル・アクトローカル』という言葉があるように、例えば、プリの中骨が捨てられているのは愛媛だけではない、アイゴの被害に苦しんでいるのは岡山だけではないというように、ローカルに対するアクションはその地域のみで終わらせず、もっと視野を広めて、色んな共同体と協力しながら、どう広めていこうかを考えて欲しい」とエールを送っています。

決勝大会に進出した9チームの缶詰は、東京都世田谷区の二子玉川ライズで開催されるイベント「海のごちそうフェスティバル2023」にて、販売される予定です。

No.	26	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1621				



神奈川県・真鶴の磯で生物観察会～真鶴町立遠藤貝類博物館とディスカバーブルーによる「海のミュージアム」～

神奈川県・真鶴半島の三ツ石海岸で「磯の生物観察会」が、2023年9月30日に行われました。このイベントは、NPO法人ディスカバーブルーと真鶴町立遠藤貝類博物館が共催しています。

「真鶴半島は、ぐるっと天然の磯に囲われている。そんな場所は日本にはあまりなくなってきている。磯の範囲が広いとそれだけ生物の種類も増えるし、磯の環境自体が生物多様性の高い状態でずっと保たれてる」と話すのが、ディスカバーブルーで代表理事を務める水井涼太さんです。ディスカバーブルーは、海に関する総合的な環境教育を推進するベンチャー団体。さまざまなプロジェクトに取り組んでいて、海にまつわる活動を行っている日本財団から支援を受けての出前授業であったり、教員向けに冊子をつくって沿岸の小中学校に配布したり、また、水族館や旅行会社などと共催した「海のエコツアー」など、多岐に渡って活動しています。そのひとつが、「磯の生物観察会」です。参加者に座学で真鶴の海について学んでもらった後、磯に行きカニやヒトデといった色々な生物を採取。つかまえた生物について、その場で詳しい解説も行います。参加した子ども達は「楽しかったです。ギンユゴイという魚がいるんですけど、尾びれの部分が黒いことに気づきました」と新たな発見をするなど大満足だったようです。水井さんが活動を通して伝えたいことは「海洋環境は、ここ5～10年で非常に激しく変わってきている。真鶴においては、ミニサンゴ礁ができてしまっていたり、海中の生態系が全く変わっていたりする。日本ではどうしても海のことを非日常的と思っているし、関心が低いので、観察会とか海を知ってもらう入り口を、可能な限り、多くの人に提供したい。ここから真鶴だけじゃなく、いろんな海に興味を持って欲しい」。

ディスカバーブルーでは今後、ひものづくり体験&プランクトン観察を町立遠藤貝類博物館で10月28日（予約終了）に実施、また、静岡県の熱海市で11月4日に開催される先生向けの「海のまなび」ワークショップ型研修会に参加、ほかにも冬の海辺の自然散策といった活動を行う予定です。

No.	27	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1625				



世界各国の海上保安機関トップが日本に集結～海上保安庁と日本財団が共催「第3回世界海上保安機関長官級会合」～

都内で「第3回 世界海上保安機関長官級会合」が、2023年10月31日から11月1日に行われました。開会式で議長を務めた海上保安庁の石井昌平長官が「近年、地球規模の環境変化により、海洋においてさまざまな被害や脅威が拡大している。グローバル化する課題に対し、世界の海上保安機関同士の連携強化や対話の拡大がこれまで以上に求められている」と話したように、この会合は、世界の海上保安機関が協力・連携するための場として海上保安庁と日本財団が共催。3回目となる今回は、アメリカや中国など過去最多となる約100の国と機関の海上保安トップが参加しました。

会合の前日に行われたウェルカムレセプションには、岸田総理も出席。そして、2日間に渡った会合では、激変する世界情勢を踏まえ、さまざまな議論が交わされた模様です。その結果、世界長官級会合ウェブサイトの構築、海上保安国際人材育成のオンラインプログラムの継続などが決定されたとのこと。日本財団の笹川陽平会長は「今こそ未来の海のために力を合わせる時。関係機関が組織の枠を超えて連携し、直面する諸課題に取り組むべきだ」と述べています。

No.	28	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1629				



マルシェ・宿泊・現代の灯台守！灯台の活用を考えるシンポジウムが開催～海と灯台ウィーク中に開催された「海と灯台サミット2023」～

11月1日の「灯台記念日」から11月8日までの期間、日本財団と海上保安庁が推進している「海と灯台ウィーク」。そのメインイベントとして、都内で「海と灯台サミット2023」が11月4日に開催されました（主催：一般社団法人海洋文化創造フォーラム 共催：日本財団「海と日本プロジェクト」）。日本には3000を超える灯台がありますが、海の道標としてだけでなく、その歴史的・文化的価値に基づく可能性が広がっています。そこで、灯台の存在意義や利活用について考え、さまざまな施策を実施しているのが、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として活動している「海と灯台プロジェクト」です。サミット会場には、同プロジェクトに参画する自治体や団体に加え、灯台に関心を持つ一般の方、約200名が集いました。午前中に行われたシンポジウムでは、日本財団の笹川陽平会長と海上保安庁の石井昌平長官によるビデオメッセージからスタート。笹川会長は「会場には、灯台について詳しい方も、あまり知らない方もいると思うが、ぜひこの機会にもっと灯台のことを知って欲しい」と語り、石井長官は「シンポジウムで灯台の新たな魅力が見いだされ、灯台の利活用の可能性を発見するキッカケのひとつになれば」と期待を寄せました。その後、9名の有識者が登壇し、3つのテーマによるトークセッションと講演が行われました。まず、「灯台を巡る体験価値」というテーマでは、モーターマガジン社の岩瀬孝昌さんが「バイク乗りは常に行先を探している。昔、灯台を管理していた方々を“灯台守”と呼んだ。そこで、バイクで灯台まで走りに行く人を“灯台乗り”と名付け、この言葉と灯台へのバイク旅を流行らせたい」と「灯台×バイク」の企画を提案。また、「灯台というロケーション価値」というテーマでは、漫画家でキャンプコーディネーターのこいしゆうかさんが「灯台はキャンプとの相性がバツグン」と話し、「灯台×キャンプ」の楽しみ方や展開について、自作のイラストとともに語りました。3つ目の「灯台に宿泊するという体験価値」では、OUTDOOR TRIP株式会社の南畑義明さんが「和歌山県の潮岬灯台の横にある灯台守が住んでいた官舎をホテルにする計画を進めている」と説明。それに対して、株式会社BLANCの安部孝之さんは「今、お客さんが旅に求めているのは非日常。灯台はすごく非日常感のある場所だと思うので、そこでの宿泊体験ができるのは魅力的だと思う」と話すなど、有識者たちが各々の視点から提言を行い、語り合いました。

No.	28	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1629				

シンポジウムの最後には、日本財団の海野光行常務理事が、「海と灯台プロジェクト」の取り組みのひとつである「新たな灯台利活用モデル事業」を紹介。この事業は、灯台のさまざまな利活用モデルを創出することを目的に、調査や施設整備などに取り組む団体を支援するもので、2年目となる今年度は11の地域で実施されています。海野常務は取り組みのひとつとして、愛知県の野間埼灯台で行われた“現代版の灯台守”というキャッチコピーで専任スタッフを募集した取り組みを紹介。そのほかにもモデル事業は、富山県の「生地鼻（いくじばな）灯台」で「灯台ナイトマーケット」が開催されるなど、各地で灯台を活かした色々な取り組みが行われています。

午後には情報交換会、テレビ番組の公開収録が行われ、幕を閉じた「海と灯台サミット2023」。灯台の今後について、海野常務理事は「一般の方には、新しい取り組みを見てもらい、実際に灯台に行ってみるといったアクションをまずは起こして欲しい。自治体や事業者には、他の事例を把握してもらい、今回のシンポジウムでは異分野の方々の発表や意見もあったので、それをどういう形で咀嚼して実現・具現化していくのかを検討して欲しい」と展望を語っています。

No.	29	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1635				



歓喜に涙も！高校生が海の課題と想いをポスターに～「うみぼす甲子園2023」決勝プレゼン大会～

東京都内で「うみぼす甲子園2023」の決勝プレゼン大会が、11月5日に開催されました。「うみぼす」は、「地元の海をスターにしよう！」を合い言葉に、2015年から行われている参加型の海のPRコンテストで、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環です。「うみぼす甲子園」は高校生のための大会で、今年で2回目の開催となりました。

この日行われた決勝プレゼン大会は、212チームの中から予選を勝ち抜いた14チームが参加。各チームは、一丸となって海の課題に取り組んだ3か月間の成果を、象徴したポスターとともにプレゼンテーションしました。その中で2つのチームに注目。そのひとつが、沖縄県立久米島高校「くめじまーんちゅ♥」です。このチームがテーマとしたのは、久米島で問題となっている「赤土」。プレゼンでは、海の濁り調査の結果などを紹介しながら、「赤土の恐ろしさが一目でわかる」を目標に作成したポスター4枚について説明。一方で、「赤土は作物栽培に使われたり、染物の着色料、シーサーの焼き物に使われたりと実は悪いところばかりではありません」とも発表しました。そのプレゼンに対して、審査員のひとりである九州大学大学院・生態工学研究室の准教授・清野聡子さんは「科学的検証や定点観測を活かしたポスターはもちろん、赤土のいいところも発表し、色んな多くの人と取り組んでいこうという気持ちが伝わった」と高評価でした。地元の海の課題と想いを伝えることができた久米島高校。その結果にメンバーのひとり「本当に久米島が大好きだから、こういう場所で久米島について話せることもすごく嬉しいし、皆さんに久米島を知ってもらえたと思うので、その熱量が伝わったのが嬉しくて感動しました」と涙をこぼしました。そして、審査の結果、久米島高校は「清野聡子 つながりづくり賞」を受賞となりました。

No.	29	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1635				

注目したもうひとつのチームは、浜松学芸高校の「可視化プロジェクト」です。このチームはアサリの漁獲量減少を切り口に、浜名湖の課題や魅力を“可視化”。ポスターも“見る”にこだわり、「私達のポスターでは、見る人の視線を意識しています。コピーライトや視線誘導を徹底的にこだわり、視線誘導の先にはQRコードを配置しました。これを読み込むと、活動をしている方々の情報が出てきます」とプレゼン。結果は、日本財団賞を受賞となりました。審査員を務めた日本財団の海洋事業部 部長・中嶋竜生さんは「浜名湖で地域を巻き込むさまざまな活動をしていて、その集大成をポスターとしていたのが、うみぼす甲子園の趣旨に合っていた」と称賛。また、「日本財団では、海底0～20mまでを地図化するプロジェクトを進めている。このプロジェクトも“可視化”であるので、一緒に活動していけたら」とも話しています。浜松学芸高校の「可視化プロジェクト」は今後について、「うみぼす甲子園を通して何回も何回も浜名湖に行ったことで、浜名湖・海・自然をととても好きになったので、これからも色々な活動を頑張っていきたいです」と語っています。ほかにも「石原良純 海藻で賞」など5チームが表彰されたうみぼす甲子園2023。そのグランプリには、「地引網から始まる漁業の活性化」をテーマにした、「近大福山地引網大隊《サイエンス・オブ・エンパイア》」という広島県のチームが輝きました。日本財団の中嶋さんは「高校生たちは、決勝に来るまでに、地域の方々とも連携して海の課題を解決する活動をしてきたと思う。そこで新しい発見や課題があったと思うので、今後はそれをさらに深めていくような活動を期待している」と高校生たちにエールを送っています。

No.	30	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1638				



スポーツごみ拾いで昨年6位だった大分代表の高校生が念願の優勝！～「スポGOMI甲子園2023」全国大会～

東京スカイツリー周辺で『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2023』の全国大会が、11月12日に開催されました。スポGOMIとは、ごみ拾いとスポーツが融合した日本発祥の競技。この日に行われたのは、高校生ごみ拾い日本一を決める大会で、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の活動の一環です。

スポGOMI甲子園は今年で5回目。過去最多となる各道府県の代表40チームが、東京に集結しました。各チームは気合十分で、福井県代表の“中田屋”は「東京をキレイにするという強い気持ちを持って戦ってきたいです」、山口県代表の“カクガリーズ”は「自分たちの魅力である機動力を生かして、絶対に優勝を勝ち取りたいです」と意気込みを語りました。

そして、「チェンジ・フォー・ザ・ブルー！」の掛け声とともに競技がスタート。スポGOMI甲子園は、制限時間内に拾ったごみの量と質をポイントで競い合います。例えば、同じ100gでも「燃えるごみは10ポイント」、「たばこの吸い殻は50ポイント」と得点配分が違います。そのため、ただ拾うだけではなく、どこに何が落ちているかを予測し、ルートを考えて効率的にごみを拾っていくなど、各チームの作戦行動が勝負の分かれ目となります。この日は小雨まじりのすっきりしない1日でしたが、各チームはそれぞれのスタイルで時間いっぱいごみを拾いました。

その結果、日本一に輝いたのは、大分県代表の「東明選抜 Ver.2.0」です。拾ったごみの総重量は32.65kg、獲得ポイントは4328.5と2位に約500ポイントもの差をつけての優勝となりました。「今回の大会でリベンジを果たせて良かったです」と話すこのチームは、実は昨年の全国大会にも出場し6位でした。その悔しさを晴らすと今回は緻密な作戦を練っていたそうで「昨年は、土地勘がないので当てずっぽうで回っていましたが、今回は自動販売機や住宅街、コインパーキングなどをメインに回った結果が、多くのごみを回収できた要因だと思います」と振り返っています。

年々拡大しているスポGOMI甲子園。スポGOMIの人もうなぎ登りで、今年は初のワールドカップも開催されます。日本スポGOMI連盟の代表・馬見塚健一さんは「スポGOMI甲子園に出た高校生が、ワールドカップの予選にも出場していた。甲子園を経験して社会人になったり進学したりした子が、違う大会にも参加してくれるのはすごく嬉しい」と目を細めます。スポGOMI甲子園を通じて、海洋ごみ問題に対する意識が変わり、その後も感心を持ち続けるという良い循環ができてきていることに、スポGOMIの生みの親である馬見塚さんは特別な想いを感じているよう。「スポGOMIを通して、海洋ごみの問題は生活に繋がっていると気づいたり、小さいアクションでも積み重ねれば解決への糸口になることを感じてもらったりと、ごみへの向き合い方が少しずつでも変わっていけば嬉しい」。

日本を含め21か国が出場するスポGOMIワールドカップの決勝大会は、11月22日に開催予定で、ライブ配信 (<https://youtube.com/live/gSq13MAeJDg?feature=share>) も行われます。

No.	31	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1642				



世界初！渋谷でごみ拾いのワールドカップ開催！～「第1回スポGOMIワールドカップ決勝大会」【前編】～

東京・渋谷で「第1回スポGOMIワールドカップ 決勝大会」が、2023年11月22日に行われました。スポGOMIとは「ごみ拾いはスポーツだ！」を合言葉に行われる日本発祥の競技。2008年に生まれたこの競技が今年、15年の月日を経て、海洋ごみ対策を行う日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として、史上初のワールドカップを開催したのです。今大会は2023年3月のインドネシア大会を皮切りに、各国で予選を実施。アメリカ、イギリス、ブラジル、南アフリカなど、世界20カ国の代表チームが決勝に進出。日本でも47都道府県で予選が行われ、10月の代表決定戦で優勝した新潟代表の「スマイルストーリー」が出場となりました。そうした8カ月の予選を経て、遂にこの日が決勝大会。開会式では、選手入場のあと、日本財団の笹川陽平会長が「海のごみの約8割は陸で発生したものとされていて、一度海にごみ流れれば回収が大変に困難です。ごみ拾いとスポーツが融合することで、誰もが楽しみながら参加できるスポGOMIを世界に広げていきたいと思っています。選手の皆さん、Let's SPOGOMI！」と述べたほか、渋谷区の長谷部健区長やスポGOMIワールドカップに協力している株式会社ファーストリテイリングの執行役員・諏訪賢介さんなどが登壇。その様子感慨深く眺めていたのは、スポGOMIの生みの親である一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブの代表理事・馬見塚健一さんです。「ワールドカップを開催できて、言葉にならないくらい嬉しいです。

（渋谷で開催された）2008年の第1回目の大会を思い出してグッときました」と感極まっていた。そんなスポGOMI発祥の地・渋谷で、いよいよワールドカップ初代王者をかけて、各国の代表21チームが激突。北京五輪でメダルを獲得した競泳元日本代表で、スポGOMIアンバサダーの松田丈志さんが先導する「CHANGE FOR THE BLUE！」の掛け声とともに、競技がスタートしました。この決勝大会は、前半戦と後半戦にわかれていて、その合計で順位が決定。そして、スポGOMIは、たばこの吸い殻やペットボトルなど、拾うごみの種類によってポイントが変わります。そのため、どんなごみを狙うのかといった作戦、ごみがある場所を見分ける力なども勝負を決める重要な要素になります。各チームは前半の45分間、それぞれが立てた作戦に従い、ごみを拾いました。フィリピン代表は「私たちの国では、ペットボトルなどがどこにでも落ちています。（渋谷はキレイで）拾うのにかなり苦労しました」と前半戦を振り返っています。そして、前半戦を終えての順位は、1位が日本、2位がイギリス、3位がブラジルという結果に。各チームは後半戦をどう戦うのでしょうか。

（後編に続く）

No.	32	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1644				



世界初！渋谷でごみ拾いのワールドカップ開催！～「第1回スポGOMIワールドカップ決勝大会」【後編】～

東京・渋谷で「第1回スポGOMIワールドカップ 決勝大会」が、2023年11月22日に行われました。スポGOMIとは、ごみ拾いとスポーツを掛け合わせた日本生まれの競技で、今年は史上初のワールドカップが、海洋ごみ対策を行う日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として開催されました。

この日は、各国代表21チームが競い合う決勝大会。初代王者を目指して、3人1組の各チームは一心不乱にごみを拾いました。世界一クリーンな街と言われる東京で、多くのチームがとった作戦は、“人目につかないごみ”を探し出すこと。一見キレイな街に見えても、隙間を覗くと、驚くほどごみがたまっていることがあります。そんな中、午前中に行われた前半戦を終えて首位に立ったのは日本でした。

そして、午後、東京五輪スポーツライミング女子複合で銀メダルを獲得した野中生萌さんの先導する「CHANGE FOR THE BLUE！」の掛け声を合図に、後半戦がスタート。逆転優勝を目指すチームの中で、特に注目を集めたのが、前半戦2位のイギリスと3位のブラジルです。2つの国のメンバーに、実の兄と妹が分かれて参加していたのです。妹でイギリス代表のSARAH LOUISE PARRY選手は「ブラジルに住む兄（STEPHEN DAVID PARRY）が、ブラジル大会で優勝したことを知らせてくれて、それで私たちもイギリス大会にエントリーすることになりました」と、スポGOMIに参加したキッカケを話します。さらに「兄とは、このワールドカップの場で2年ぶりに再会しました。すごいでしょ」と、自分でもビックリしている様子でした。兄の勧めで出場したSARAH選手のように、誰でも参加できて、優勝の可能性もあるのが、スポGOMIの特徴なのです。そのため、どのチームも最後まで諦めることなく、後半戦の45分間もごみを拾い続けました。その結果、優勝したのは、イギリス代表チーム。前半2位で折り返したチームが、見事逆転で初代チャンピオンに輝きました。イギリス代表は「この日本でごみを探すのは本当に大変で、本当にチャレンジングな大会でした。優勝した結果を持ち帰ることで、もっと多くの方がスポGOMIに参加するようになればいいと思っています」と言います。惜しくも準優勝となった日本代表のスマイルストーリーは「後半は狙っていた場所にごみがありませんでした。また、遠くに行きすぎたので、そのタイムロスが勝敗に影響したと思います」と悔やんでいる様子。一方で、「各国代表と話してみると、例えば、オーストラリア代表は毎週ヨガをしながらごみを拾っているそう。そういった地球のことを考え続けている人達が、同じ思いを持って集まり、心をひとつにしていたことが嬉しいと心から思いました」とも語っています。

3月のインドネシア大会を皮切りに、世界初の試みとして開催されたスポGOMIワールドカップでは、この日の決勝大会も含めて約8900kgものごみを回収しました。また、海外メディアからも高い注目を集め、ごみ拾いというアクションが世界へと広がっていく確かな一歩になったようです。そんな大会の今後について、日本財団の海野光行常務理事は「第2回も実施しようと考えている。国数を増やそうと思っているため、決勝大会は2年後を想定している。これからも全世界、あらゆる世代を対象にしつつ、スポGOMIを広げていきたい」と展望を語っています。

No.	33	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1650				



外国人が日本の“魚をさばく”を体験～ 「Sabakeru: Sustainable Seafood Culture from the Japanese Kitchen」 ～

東京で「Sabakeru: Sustainable Seafood Culture from the Japanese Kitchen」が、2023年11月29日に行われました。このイベントは、魚をさばく体験から各地の海の食文化や海洋環境について学んでもらう活動をしている「日本さばける塾」と、多言語でニュースを配信している「nippon.com」が連携し、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として開催されました。日本財団 海洋事業部 海洋環境チームの坂根朱華里さんは「これまで日本財団 海と日本プロジェクトは、日本の子ども達に海の恵みや豊かさ、海洋問題などを伝えることをメインに活動してきた。今回はnippon.comと連携することで、さまざまな国の人に海と日本プロジェクトの活動を知ってもらい、魚をさばくことによって海の環境の変化を知ってもらおうキッカケになるのではと思っている」と意義を話しています。

この日は、アメリカ、ドイツ、インド、ブラジル、中国、さらにはニカラグア大使など、さまざまな国の人が参加。海洋環境などについて学びながら、魚さばきと寿司づくりに挑戦しました。海の学習では、サーモンに見える「まるで魚」というこんにやくを使った寿司を提供。魚は海の大切な資源で、今のまま放っておくと海から魚がいなくなってしまう未来もあると紹介し、このイベントを海について考えるキッカケにして欲しいと伝えました。その後、魚さばきと寿司づくりがスタート。まずは、アジの三枚おろしから。参加者は通訳を介しつつ、寿司職人から直接さばき方を教えてもらって実践。次は、さばいたアジを使って柿の葉ずしづくりです。一体なぜ柿の葉ずしづくりを体験してもらったのでしょうか。日本さばけるプロジェクトの事務局長・國分晋吾さんは「さばける塾で大切にしていることは、食文化や海洋環境、海の課題などを知っていくと伝えること。今回は外国人がさばける体験ということで、今の寿司も食文化ではあるが、もっと昔から遡り、お寿司の原型はこういうものだった伝えたくて、柿の葉ずしにした」と言います。体験の最後は、にぎり寿司にも挑戦。そのネタもブリやアイゴなど、日本の海の変化を知ることができるもの。例えばブリは、温暖化などの影響から分布域が北上しているそうで、現在は北海道で多く漁獲されていると伝えました。そして、イベントの締めくくりは、國分さんの「命やそれを育む自然に感謝して『いただきます』』という掛け声のあと、自分たちでつくった寿司を“いただきました”。参加者は「とても面白い体験でした。私たちの国でも寿司は食べますが、つくるのがこれほど大変だとは思いませんでした」、「魚のさばき方も学べて、とても興味深かったし楽しめました」、「初めてアイゴの寿司を食べました。フィリピンではありふれた魚だけど、調理法は全然違います。生で食べるのがこんなにおいしいなんて知りませんでした」と満足気、非常に有意義な体験になった様子です。初めて外国人に向けてイベントを開催した日本さばける塾。今後について國分さんは「日本さばける塾の良いところは、魚をさばくことを結節点に色んな人がつながること。今回も海外の方や職人とつながることができたので、今後も異業種や異分野とのコラボレーションをやっていききたい」と語っています。

No.	34	エリア	宮城県	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1655				



閉館後の水族館でコンサートにディナー～仙台うみの杜水族館と新江ノ島水族館が行ったスペシャル体験～

日本全国に100カ所以上もある水族館。国土面積あたりの数にすると世界一とも言われていますが、さまざまな取り組みが行われています。その中には、展示飼育されている生き物を鑑賞するだけではないものも。宮城県にある仙台うみの杜水族館では、「うみ想いコンサート」が2023年10月21日に行われました。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」が活動の一環として、仙台うみの杜水族館とコラボレーションした企画。三陸の海を再現し、50種3万点の生きものを飼育展示している大水槽「いのちきらめくうみ」の前で、閉館後に行われたコンサートのコンセプトは、“海を聴く。観る。感じる。”です。海をテーマに、イギリスのBBCラジオへ出演するなどグローバルに活躍している相田雅美さんによる中国の弦楽器・二胡のソロ演奏や仙台フィルハーモニー管弦楽団による弦楽四重奏などが行われました。仙台フィルハーモニー管弦楽団の御供和江さんは「お魚とのコラボレーションは初めてです。想いを伝えられたと思いますし、お客さんからも私が気づかなかった想いを伝え返してくれているような気がしました」と振り返っています。そして、お客さんは「私も知っているジブリの曲やディズニーの曲とか色々あって楽しく聴くことができました」と大満足だった様子。仙台うみの杜水族館の増淵修館長は、「今回のコンサートでは、違った目線で海の大切さや生き物の魅力を伝えられたと思う。今後も色々で啓発活動をしていきたい」と今後について語っています。

普段とは違った方法で海を知ってもらうイベントを行った水族館は、神奈川県にもあります。新江ノ島水族館では「Bistroえのすい～ふじさわサステイナブルレストラン～」が、10月15日に開催されました。このイベントは、閉館後の水族館でディナーを食べてもらうという試みです。新江ノ島水族館 展示飼育チーム学芸員の八巻鮎太さんは「より多くの人に水族館へと足を運んでもらいたい。そういった中で、今までとは違うことをやってみたくて、“食事”を主役に据えたイベントをやりたいと考えていた」と話します。そんな想いを抱いていた中、持続可能な海を目指して啓発活動を行うシェフの団体「Chefs for the Blue」の代表理事・佐々木ひろこさんと意気投合。今回、「Chefs for the Blue」と海の体験学習や藻場保全活動などを行う「江の島・フィッシャーマンズ・プロジェクト」、そして、新江ノ島水族館が共催し、このイベントが実現しました。

No.	34	エリア	東北	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1655				

相模湾を再現し、約100種2万匹が展示飼育されている大水槽の前で行われたディナーの特徴のひとつが、食材です。魚は江の島片瀬漁協でとれたアイゴやシイラを使用するなど、変わりゆく相模湾の“今”を伝える魚にこだわり、和食とランチを提供しました。ランチを担当したMr. CHEESECAKEの田村浩二シェフは「普段 流通していない、一般の方が食べることはない魚を使っているので、こだわりとしてラビオリの中身も90%以上を魚のみでつくっている」と言います。また、和食を担当した御料理ほりうちの堀内さやかシェフは「水族館ということで火が使えないが、和食はおせちの文化があるように、アツアツじゃなくても楽しんでもらえる。そういった料理をピックアップして魚と組み合わせ構成した」とこだわりについて語っています。

イベントでは、料理を一流のシェフが担当する一方で、接客は新江ノ島水族館のトリーター（飼育員）が担当。また、食事の合間には地元の漁師を招いてのクロストークも行われるなど、水族館、漁師、シェフ、そして、お客さんも一体となって、海の大切さや食の未来をテーマに考えを深め合いました。堀内シェフは「食卓に並ぶ魚たち、水槽で泳いでいる魚たちが、実際にどうなっているのかを見ながら食べながら考えてもらえたら嬉しい」と言います。Chefs for the Blueの代表理事・佐々木ひろこさんは「水族館は地元の方と海を結びつける非常に良いタッチポイントだと思っている。日本には100以上の水族館があるので、ほかの水族館でも色んなことができるのではないかと考えている。各地域では、全く違う海があって、違う魚がいて、違う課題を抱えているので、それらを地域の方と考える場づくりを今後も水族館をタッチポイントにやっていきたい」と展望を語っています。

素材提供：日本財団「[海と日本プロジェクトinみやぎ](#)」
協力：東北放送株式会社

No.	35	エリア	全国	カテゴリー	テクノロジー
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1658				



学生が掘り起こしたクジラを展示～東京海洋大学マリンサイエンスミュージアムにコククジラの標本を展示～

東京海洋大学マリンサイエンスミュージアムにて、「コククジラの骨格標本 展示開始式」が、2023年12月1日に開催されました。このイベントは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。2016年3月、南房総市内の防波堤に、体長9メートルほどのクジラの死がいが漂着。調査の結果、絶滅が危惧されているコククジラの子どもと判明し、標本をつくるために解体され、海岸の砂浜に埋められていました。その後、7年の月日を経て、標本化プロジェクトが本格始動。今年1月には「掘り起こしと3Dスキャン」が行われました。

そして、遂に標本が完成し、展示開始式が行われたのです。コククジラの骨格標本はとても希少価値が高いそうで、クジラの専門家である東京海洋大学・海洋環境科学部門の中村玄助教は「国内外問わず、コククジラの骨格標本は非常に少ない」と言います。また、クジラの形に組み立てずに展示した理由について、「研究者は骨の裏や厚さを測りたいが、組まれてしまうと観察ができないので、バラバラの状態の方が研究価値として高い」と説明。一方で、3Dスキャンしたデータを使い、全体がわかる「玉骨標本」も出力しました。これらの標本化に協力したのが、海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクトの研究生です。このプロジェクトは、最新の3D技術を学びながら海洋生物の研究を行うもので、標本化プロジェクトも活動の一環として、研究生が発掘と3Dスキャンに協力しました。展示開始式に参加した1期生の栗山奈月さんは「展示されて感無量です。自分が手伝ったものが多くの方に見てもらえると思うとワクワクします」と嬉しそうでした。また、杉本拓哉さんは「発掘した時は慌ただしくて、骨などをよく見られなかったのが、今からゆっくり見ようと思います」と楽しみにしている様子。さらに、今年度に入学生した3期生も展示式に参加していて、中島明香莉さんは「生で見れて貴重な経験になりました」と話し、萩原竜誠さんは「調べたい魚について3D技術を活用して伝えていきたいので、今回の展示方法は今後にも生かせると思います」と参考になったようです。プロジェクトの主任講師で吉本アートファクトリー代表の吉本大輝さんは「学生のうちから3Dデータに触れたりして編集できるようになれば、違う分野に進んでも、3Dだったらこんな風に解決できると提案できる、いわば僕の仲間が育っていくと思う」と取り組みの意義を語っています。日本財団 海洋事業部 海洋環境チームの坂根朱華里さんは「海の課題も社会課題も、ひとつの問題として切り取ることができない。海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクトは、多面的に捉えられる力を養えるので、その力を生かして世の中に役立て欲しい」と、研究生に期待していると言います。

今回展示された標本は、東京海洋大学マリンサイエンスミュージアムにて無料で観覧できます。

No.	36	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1675				



三重の海から伊勢海老が消える！？～各地の海 の課題に取り組む「海のごちそうプロジェクト」 ～

食を通じて海に興味・関心を持ってもらう取り組み「海のごちそうプロジェクト」。日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、4年目となるこのプロジェクトは、活動の裾野がさらに広がっています。

このプロジェクトの大きな柱のひとつが、2021年から毎年開催している「海のごちそうフェスティバル」です。今年度は2023年10月21日・22日に二子玉川ライズで実施。日本財団の海野光行常務理事が「（メインメッセージである）『知れば知るほど、海はおいしい。』とはどういう意味なのかを、お買い求めいただいた皆さんに感じ取ってもらえたら」とオープニングステージで話したように、このイベントは食べ物の背景にある「海のストーリー」を伝え、おいしいをきっかけに海の未来を考えるもので、「海のごちそうプロジェクト」の1年間の集大成として開催されています。当日は全国各地の海のグルメが味わえ、その食材の背景にある海の現状や課題、食材が口に入るまでのストーリーにふれることができるフードブース「海のごちそうキッチン」や「海のごちそうマルシェ」などを展開。今年度は、海の社会課題を伝える商品を高校生が手売りする「海のごちそう高校生マルシェ」も新たにを行いました。このフェスのほかにも、「海のごちそうプロジェクト」では、10月10日の「魚（と）の日」から16日まで、海の食に関するさまざまなキャンペーンを全国各地で行う「海のごちそうウィーク」、「魚をさばく」を入り口に各地の海の食文化や海洋環境を学んでもらう「日本さばけるプロジェクト」、各地域の海と食の課題を地域のグルメを開発して発信していく「海のごちそう地域モデル事業」など、多種多様な取り組みを行っています。プロデューサーの國分晋吾さんは「出てきたお魚をただ食べるのではなく、資源や環境、食文化といった背景を知って食べると、より一層おいしく味わえると思っている。それが本当の意味での“海のごちそう”なのではないかと考え、実施している」とプロジェクトの意義について語っています。また、こういった活動の中で、すぐに解決しなくてはならない喫緊の海の課題があると國分さんは言います。それが、「魚種転換」と「磯焼け」です。

No.	36	エリア	全国	カテゴリー	海の体験機会づくり
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1675				

この2つの課題に取り組み、成果を上げている事業のひとつが、「海のごちそう地域モデルinみえ熊野」です。2023年度から開始したこの事業が取り組んでいる課題が、「植食性（しょくしょくせい）魚類の増加」。三重県では、アイゴといった海藻を食べる魚たちが、地球温暖化などの影響から増えています。その結果、海の生きものたちの棲み処や産卵場所となっている藻場が減少・消滅する「磯焼け」が起こっているのです。海のごちそう地域モデルinみえ熊野の事務局長・地域プロデューサーの小野里伸さんは「伊勢海老が三重の海から消えていってしまう。藻場がなくなっているのが、大きな要因のひとつ。伊勢海老の稚エビが育つには藻場が必要不可欠」と危機感を抱いています。さらに、三重で増えているアイゴは、背びれに毒があり、鮮度が落ちてくると臭みも出てくるため扱いにくく、漁で網にかかっても一般に流通することは少ない魚という課題もあります。そこで、小野里さん達は地元の漁師や漁協などと協力。生きたままアイゴを水揚げしてもらい、加工場ですぐに活締めして三枚におろすという新鮮なまま加工する仕組みを確立。地域の海の課題魚であるアイゴをおいしく活用できる魚に変えました。小野里さんは「（この1年間で）水揚げから加工までの仕組みがうまくできたのが、最も大きな成果だと思う。（さらに）飲食店20店舗でメニュー展開してもらった」と話しています。プロジェクト1年目にして確かな手応えを得られたという海のごちそう地域モデルinみえ熊野ですが、今後については「まだテイクオフしたばかりなので、これから何年もこの課題について取り組んでいかないといけない。このプロジェクトを足掛かりに、アイゴとか植食性魚類を、例えばアジとかサバとかイワシとかと同じ目線で捉えてもらえるように頑張っていきたい」と小野里さんは語っています。

No.	37	エリア	兵庫県 高知県 愛知県	カテゴリー	安全・そなえ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1682				



必見！迫る災害の脅威に防災を！～愛知・兵庫・高知で行われている防災対策～

2024年の年明けに起こった能登半島地震。近年、災害の脅威が増す中、より注目されているのが「防災」で、各地ではさまざまな取り組みが行われています。兵庫県では2018年9月に上陸した台風が各地に甚大な被害を出しました。南芦屋浜地区では、高潮で海水が住宅に流れ込み、多くの家屋で浸水。そこで高潮対策として護岸をかさ上げし、新たに防潮堤を設置しました。兵庫県尼崎港管理事務所の所長補佐・日和則幸さんは「もともと南芦屋浜は、護岸の高さと背後の地盤の高さが一緒だったため、海を望める状況だった。今回、壁をつくる際に眺望を確保して欲しいという意見もあったが、安全という面では確実に波を止めなくてはならない。そこで、その兼ね合いとして、なるべく護岸の高さを低く抑えられるように、前の壁と後ろの壁と二段構造にした。また、後ろの壁には眺望に配慮してアクリル板を配置し、陸側から海が望めるようにした」と説明。また、「マナーを守って気持ちよく多くの方に護岸を使って欲しい」と語っています。

また、高知県でも津波への対策を行っています。高知県危機管理部 南海トラフ地震対策課の主幹（※取材時の所属）である西谷賢一さんによると「高知県では、地震の発生から早いところでは3分で津波が到達すると想定されている」と言います。そして、その津波に備えるためには、高台や津波避難タワーなどに避難するなど重要とのこと。高知県には100基を超える津波避難タワーがあり、今後も地域の状況によって増やしていく予定だそう。さらに、津波避難タワーなどの避難場所や避難ルートの確認には「高知県防災アプリ」を活用するのが有効とのこと。西谷さんは「観光や海水浴など海は楽しい場所。しかし、津波は大きなエネルギーを持っているので、足元30cm浸かってしまうだけで大人でも身動きが取れなくなってしまうことがある。事前に避難場所や避難所を確認しておくのが大事」と注意喚起しています。

No.	37	エリア	全国	カテゴリー	安全・そなえ
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1682				

そして、愛知県には少しでも災害の被害を減らす「減災」に関する施設があります。それが、名古屋大学にある「減災館」です。この日、行われたのは「減災教室」。名古屋大学減災連携研究センターの飛田潤センター長は「今回の減災教室は、こどもたちが楽しく災害について学んでもらうことと、お父さんやお母さんと話し合う機会にしてもらいたくて行った」と意義について話しています。教室で行われたひとつは、流れる水の働きを見ることができる装置「エムリバー」を使っての実験。水害を実体験することは難しいため、この装置から洪水時の水の流れなどを知ってもらいたいとのこと。また、「みんなをまもるカルタ」で遊びながらの学習も実施。「きけんだよ おおあめたいふう かわにはいかない」という読み札のように、ゲームをしながら危険に対処する方法が学べます。さらに、事前に災害へ備えるため、「防災リュック」に入れるものをこどもたち自身が考えました。中身に必要なものとしては、飲料水や非常食はもちろん、折って紙食器にしたり、体に巻けば防寒にもなったりする新聞紙、手袋や水を運ぶのに活用できるゴミ袋・ポリ袋、そのほかにもラップや大型ハンカチ、救急セットなどだと言います。また、こどものリュックには、おもちゃや食べ慣れたオヤツ、緊急連絡先の情報紙などを入れておくとうまいそう。参加したこどもたちは「津波だと高いところに避難する」と話すなど、減災についてしっかり学べたようでした。

いつ起こるか分からない災害。そのためにさまざまな“そなえ”が必要不可欠です。

素材提供：日本財団「[海と日本プロジェクトinひょうご](#)」「[海と日本プロジェクトin高知県](#)」「[海と日本プロジェクトin愛知県](#)」

協力：サンテレビジョン テレビ高知 テレビ愛知

No.	38	エリア	長崎県 鹿児島県	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1685				



ペンギンの長崎方式とジンベエザメのかごしま方式って？～水族館のお仕事@九州～

水族館は日本全国に100カ所以上もあり、国土面積あたりの数にすると世界一とも言われています。各地の水族館では展示以外にも重要な仕事があります。それが飼育・研究です。

長崎県にある「長崎ペンギン水族館」には、9種類180羽以上のペンギンが暮らしています。その飼育種類数は世界一で、世界に生息する18種類の半分が見られます。そのペンギンたちの健康を守るために、この水族館では「長崎方式」という独自の飼育方法を行っています。「冬場は外に出して日光に当たった方がペンギンたちのためになるのではないかと考えた。そこで、朝はペンギンたちを歩かせて屋外飼育場へ連れていく。そして、夜の閉館する際にも歩かせて飼育場に戻す。こうしてペンギンたちが歩くことが運動になる」と田崎智館長は説明。土日祝日に開催されている「ふれあいペンギンビーチ」でも、歩かせるようにエサをあげるなど、イベントでもペンギンが歩くような内容を積極的に行っています。こういった取り組みによって健康状態を良好に保つことが、繁殖の成功にも繋がると言います。その繁殖でもこの水族館では、さまざまな取り組みを実施。そのひとつが「受精卵移動」です。ペンギンも人間と同じで、血縁が近くなることで遺伝的な病気のリスクが上がります。そこで、長崎ペンギン水族館では、それを避けるためにほかの水族館などと連携。受精卵を空輸してこの水族館で孵化させる「受精卵移動」などに取り組んでいるのです。田崎館長は「今後もこのような取り組みで、国内のペンギンたちの遺伝的多様性を保っていきたい。また、繁殖をしっかりとペンギンたちを未来の人々につなげていけるように頑張りたい」と語っています。

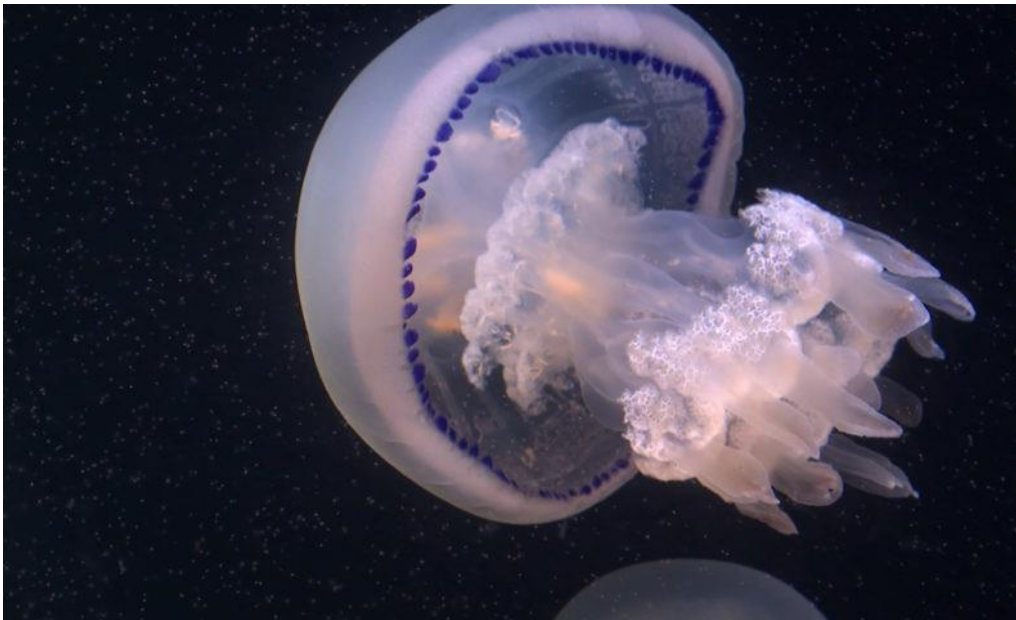
No.	38	エリア	全国	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1685				

独自の飼育方法を行っているのは鹿児島県にもあります。それが、800種1万点を飼育展示する「いおワールド かごしま水族館」。この人気者が、大きいものだと18メートル以上にもなる世界最大の魚「ジンベエザメ」です。この水族館にいるのは、10代目の「ユウユウ」。実は歴代のユウユウ全てが、鹿児島で定置網にかかったものだと言います。展示課の土田洋之さんは「鹿児島県では春から秋の海水温があたたかい時期に、ジンベエザメが沿岸近くまでやってくるのが漁業者の間では知られている。ただ、多くの方には知られていないと思う」と言います。そのジンベエザメの飼育・展示について、この水族館では「かごしま方式」という独自のルールで行っています。土田さんは「成長すると最大18メートル以上になるジンベエザメを水族館ですずっと飼育し続けることはできない。そこで、全長5.5メートルを上限として、再び海に帰す方法で継続展示を行っている」と説明。そして、海に戻す際には、飼育技術の向上や生態の解明に貢献しようと、発信機やカメラなどをつけての追跡調査も行っています。「元気な姿で再び海に帰すことによって、野生資源に負担をかけない、野生の数を減らさない、そういった展示方法です」と土田さんは話しています。いま展示されている10代目ユウユウも2024年か2025年頃に海へと帰す予定だそう。海に帰る前に会いに行ってみてはいかがでしょうか。

素材提供：日本財団「[海と日本プロジェクトinながさき](#)」「[海と日本プロジェクトin鹿児島](#)」

協力：テレビ長崎 南日本放送

No.	39	エリア	和歌山県 山形県	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1688				



日本一や日本初だらけ！クラゲ・サンゴ・ウミガメ で日本が誇るスゴイ水族館～水族館のお仕事 @山形・和歌山～

水族館は日本全国に100カ所以上もあり、国土面積あたりの数にすると世界一とも言われています。各地の水族館では展示以外にも重要なお仕事が。それが飼育・研究です。和歌山県にある串本海中公園。

この公園は、1970年に日本で最初の海中公園として指定された歴史あるスポットで、海中展望塔や水族館などがあり、実は日本一や日本初がいくつもあります。そのひとつが、水族館で飼育されている「サンゴ」。開館した50年以上前から飼育されている「ウミバラ」は、日本の水族館にあるものとしては、日本一の長寿サンゴとなります。そして、もうひとつが、アカウミガメの人工繁殖です。日本の水族館で最初に手掛けたそうで、卵を孵化させて海に放流しています。今後について、串本海中公園の森美枝館長は「野生のウミガメは数が減っている。研究もまだまだ進んでいないので、これからも繁殖の研究を続けて、ウミガメの生態の解明や資源回復の研究に取り組んでいきたい」と意欲的です。

No.	39	エリア	全国	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1688				

さらに、日本一を持つ水族館は山形県にもあります。それが、通称「クラゲ水族館」と呼ばれている「鶴岡市立加茂水族館」です。この水族館では、クラゲを約80種類も展示。その種類数は日本一どころか世界最大規模となっていて、2012年にはギネス世界記録にも認定されたほどです。そのクラゲのほとんどが加茂水族館で生まれたもので、繁殖を積極的に実施。中でも、いま力を入れているのが、泳ぐ時に虹色に輝く「ウリクラゲ」です。飼育課の池田周平さんは「ほかの水族館や研究者の間でも繁殖が難しいとされ、ほかの水族館では行われていないので力を入れている」とその貴重性を語っています。世界でも難しいとされるウリクラゲの繁殖。その理由はエサだそうで、「カブトクラゲの仲間しか食べない。そのためウリクラゲの繁殖を行うには、カブトクラゲの繁殖を大量にしないといけないので、そこが難しい」と池田さんは言います。実はカブトクラゲの繁殖も難しいそうですが、研究の結果、安定した繁殖方法を確立しました。池田さんは繁殖への取り組みについて「水族館は、野生個体をとってくるだけでなく、色んな個体を繁殖して展示することに意味があると考えている。ウリクラゲ、カブトクラゲの繁殖が難しいからと諦めるのではなく、チャレンジして繁殖に力を入れている」とその意義を語っています。

素材提供：日本財団「[海と日本プロジェクトin和歌山県](#)」
「[海と日本プロジェクトin山形](#)」

協力：テレビ和歌山 テレビユー山形

No.	40	エリア	愛媛県 香川県 鳥取県	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1690				



中国・四国地方でのブルーカーボンに関する取り組み～香川・愛媛・鳥取で行われる藻場づくり&磯焼け対策～

地球温暖化が叫ばれ続けている今、二酸化炭素の吸収方法として注目されているのが「ブルーカーボン」です。ブルーカーボンとは、海藻（海草）や植物プランクトンなどが行う光合成により、海水に溶け込んだ二酸化炭素が吸収されることにより、海洋生態系に貯められた炭素のこと。そんな中、海藻（草）が生い茂る場所「藻場」に関する取り組みが各地で行われています。

愛媛県で行われているのが「今治アマモプロジェクト」。海草「アマモ」がたくさん生えている場所「アマモ場」を再生させようという取り組みを行っています。「アマモ場」は、かつては日本の沿岸で多く見られましたが、高度成長期の沿岸域の埋め立てなどによって大幅に減少。特に瀬戸内海では、1960年から1990年の間に約7割が姿を消しました。2022年から活動を開始している今治アマモプロジェクトでは、こども達も参加し、海で採取したアマモの種をポットに植えて発芽させ、苗の生育状況を観察。また、自然に帰る素材のガーゼに種と土を包み、海水が引き込まれている今治城のお堀に入れてアマモ場ができるか検証しました。しかし、採取した1万粒の6割ほどが発芽したものの、アマモ場の形成には至りませんでした。そこで、2023年はおよそ5万粒を採取し、さらなる検証を行っています。今後について、プロジェクトを主催しているNPO法人 今治シビックプライドセンターの三谷秀樹さんは「一気に広がる事業ではないので、継続して行っていき、参加しているこどもと一緒に育っていければと思う」と語っています。

No.	40	エリア	愛媛県 香川県 鳥取県	カテゴリー	生態系
URL	https://social-innovation-news.jp/?p=1690				

一方で、香川県にある香川大学では、人工物を使った藻場づくりに取り組んでいます。それが「人工藻場造成構成物」を使った研究。これは藻場を生やすために設計した人工漁礁で、自然のエネルギーである潮の流れをコントロールできるように設計しました。人工的に藻場をつくるのは難しいと言われている中、高松市沖に「人工藻場造成構成物」を設置した結果、12年間で藻場の成長のサイクルができ、魚やタコなどが棲みつくという成果が出ています。香川大学・創造工学部長の末永慶寛教授は「藻場を増やすために、何でもかんでも海に入れればいいわけではなくて、自然のエネルギーである潮の流れをうまく利用することで、エコな藻場のつくり方を目指している」と述べています。

そして、鳥取県では、ムラサキウニを駆除する取り組みを実施。鳥取市青谷町では海藻を食べるムラサキウニが大量繁殖し、藻場が減少・消滅する「磯焼け」が起こっているのです。そこで、鳥取県内の漁業者が、磯焼け対策として集中駆除を実施。100平方メートルの区画内のウニを繰り返し駆除することで、区画内のウニの数と海藻が再生したかを確認するものです。この駆除には、鳥取県立青谷高校の生徒も、青谷地域について学習する「青谷学（あおやがく）」の一環として参加しています。この日は、ウニの数にどのような変化があったのかを確認。すると、集中駆除を行っているエリアには、ウニが少なくなっていたり、海藻が蘇りつつあったりしているようです。鳥取県漁協の古田晋平さんは「（ムラサキウニは）確実に減っている。私自身は全国的にもこのような調査は見たことないから、やってみようとなった」と話します。生徒は「海藻が増えてよかった」、「地域に貢献できてうれしい」と手応えが感じられたよう。

海の環境問題をどのように解決するのか、各地の取り組みに期待が寄せられています。

素材提供：日本財団「[海と日本プロジェクトinえひめ](#)」「[海と日本プロジェクトinかがわ](#)」「[海と日本プロジェクトinとっとり](#)」

協力：南海放送 西日本放送 日本海テレビジョン放送


3 ヤフー記事掲載

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
1	全国	ライフ	廃棄漁網がオシャレアイテムに生まれ変わった！～「日本財団 × ALLIANCE FOR THE BLUE × Creema」によるアップサイクル～
2	全国	ライフ	海のスーパーキッズが全国から集結～「全国子ども熱源サミット」初開催～
3	全国	ライフ	スーパー中学生が大好きな海の生き物を3D化！～二期生の研究発表会 & 修了式「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」～
4	全国	ライフ	目標10万種！新種の海洋生物を探すプロジェクト開始～日本財団と Nekton財団による「The Nippon Foundation-Nekton Ocean Census」始動～
5	全国	ライフ	海岸が映画館！？逗子から映画と海洋問題を発信～第12回「逗子海岸映画祭」～
6	全国	ライフ	コスプレイヤーが道頓堀の周辺でごみ拾い～「春の海ごみゼロウィーク 2023」キックオフイベント～
7	全国	ライフ	函館の灯台サウナや和歌山の灯台ホテルなどモデル事業が続々～灯台の利活用について語る「海と灯台のまち会議」～
8	青森県 宮城県 山形県 香川県 高知県	ライフ	いま知っておくべき水難事故防止のそなえ～「溺れないため」と「万が一の対処法を身に着ける」という2つの水辺のそなえ～
9	全国	ライフ	香川県で川の水を抜いて大清掃！～瀬戸内4県（香川・岡山・広島・愛媛）と日本財団が共同する「瀬戸内オーシャンズX」による一掃作戦～
10	全国	ライフ	命を救うライフジャケットの正しい着用方法～ライフセーバーが教える水難事故防止のための実践的な「そなえ」【前編】～
11	全国	ライフ	水辺の事故防止！浮いて救助を本当に待てる？～ライフセーバーが教える水難事故防止のための実践的な「そなえ」【後編】～
12	全国	ライフ	千葉県・御宿で聴覚に障がいを持つ人達のボディボード大会～世界一に輝いたプロもサポートする「AKEUMI Deaf BB CUP」～
13	全国	ライフ	世界初にも挑戦！無人運航船プロジェクトの第2ステージ～「MEGURI2040」による無人運航船セミナー～
14	全国	ライフ	サザエさんが社会貢献者として特別賞～「第59回 社会貢献者表彰式典」
15	全国	ライフ	子ども達がサンゴを守るお仕事を体験！～静岡県沼津市で行われた「こどもわーく 海のお仕事プロジェクト」～
16	全国	ライフ	海と人をつなぐ「御前崎 渚の交番」～マリンスポーツで子ども達の健全な心を育む～
17	全国	ライフ	お相撲さんとサザエさんがビーチクリーン～片瀬東浜海水浴場で活動する「海と日本プロジェクト」と「海さくら」～
18	全国	ライフ	海の自由研究をインフォグラフィック化！～小学生と美術専門学生がタッグ「第3回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
19	全国	ライフ	コスプレイヤーが横浜を大清掃！～日本財団と環境省による「秋の海ごみゼロウィーク2023」キックオフイベント～
20	全国	ライフ	ミシュランシェフが伴走！学生が海と食を学んで実践するプログラム～Chefs for the Blueによる「THE BLUE CAMP」【前編】～
21	全国	ライフ	ミシュランシェフが伴走！学生が海と食を学んで実践する「THE BLUE CAMP」～3か月間の集大成・ポップアップレストラン開店【後編】～
22	全国	ライフ	デザインから海を知る・考える～東京・六本木で開催中の「第二回 国際海洋環境デザイン会議」～
23	全国	ライフ	サザエさんと元日本代表アスリートとよみこ・濱口がコラボ！～イトーヨーカドーで海と日本プロジェクトとサザエさんがイベントを開催～
24	全国	ライフ	日本代表が決定！世界初「スポGOMIワールドカップ」～新宿で日本STAGEが開催～
25	全国	ライフ	愛媛県が日本一！高校生が缶詰を開発する全国大会～LOCAL FISH CAN グランプリ2023～
26	全国	ライフ	神奈川県・真鶴の磯で生物観察会～真鶴町立遠藤貝類博物館とディスカバーブルーによる「海のミュージアム」～
27	全国	ライフ	世界各国の海上保安機関トップが日本に集結～海上保安庁と日本財団が共催「第3回 世界海上保安機関長官級会合」～
28	全国	ライフ	マルシェ・宿泊・現代の灯台守！灯台の利活用を考えるシンポジウムが開催～海と灯台ウィーク中に開催された「海と灯台サミット2023」～
29	全国	ライフ	歓喜に涙も！高校生が海の課題と想いをポスターに～「うみばす甲子園2023」決勝プレゼン大会～
30	全国	ライフ	スポーツごみ拾いで昨年6位だった大分代表の高校生が念願の優勝！～「スポGOMI甲子園2023」全国大会～
31	全国	ライフ	世界初！渋谷でごみ拾いのワールドカップ開催！～「第1回スポGOMIワールドカップ決勝大会」【前編】～
32	全国	ライフ	世界初！渋谷でごみ拾いのワールドカップ開催！～「第1回スポGOMIワールドカップ決勝大会」【後編】～
33	全国	ライフ	外国人が日本の“魚をさばく”を体験～「Sabakeru: Sustainable Seafood Culture from the Japanese Kitchen」～
34	宮城県	ライフ	閉館後の水族館でコンサートにディナー～仙台うみの杜水族館と新江ノ島水族館が行ったスペシャル体験～
35	全国	ライフ	学生が掘り起こしたクジラを展示～東京海洋大学マリンサイエンスミュージアムにコククジラの標本を展示～
36	全国	ライフ	三重の海から伊勢海老が消える！？～各地の海の課題に取り組む「海のごちそうプロジェクト」～

No.	エリア	カテゴリ	タイトル
37	兵庫県 高知県 愛知県	ライフ	必見！迫る災害の脅威に防災を！～愛知・兵庫・高知で行われている防災対策～
38	長崎県 鹿児島県	ライフ	ペンギンの長崎方式とジンベエザメのかごしま方式って？～水族館のお仕事@九州～
39	和歌山県 山形県	ライフ	日本一や日本初だらけ！クラゲ・サンゴ・ウミガメで日本が誇るスゴイ水族館～水族館のお仕事@山形・和歌山～
40	愛媛県 香川県 鳥取県	ライフ	中国・四国地方でのブルーカーボンに関する取り組み～香川・愛媛・鳥取で行われる藻場づくり&磯焼け対策～

No.	1	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/da34b62e2013e61e43a0160ab88214ceaacb7571				

YAHOO!
JAPAN ニュースIDでもっと便利に**新規取得****ログイン**  PayPay支払いなら毎日5%（上限あり）

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

個人

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有料

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | **ライフ** | 地域

廃棄漁網がオシャレアイテムに生まれ変わった！～「日本財団×ALLIANCE FOR THE BLUE×Creema」によるアップサイクル～

3/20(月) 12:00 配信  2    
SOCIAL INNOVATION NEWS

**廃棄漁網のリサイクル生地を使った作品で
コンテストを実施**

日本財団「海と日本プロジェクト」

日本財団×ALLIANCE FOR THE BLUE（アライアンス・フォー・ザ・ブルー）×Creemaによる廃棄漁網のリサイクル生地を使った作品についての記者会見が、2023年3月9日に行われました。

No.	2	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/9d09d5204fe486e08727adc248b7d473754e5eff				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン 毎月5のつく日更新 10%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキン

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

海のスーパーキッズが全国から集結～「全国子ども熱源サミット」初開催～


4/22(土) 16:00 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「全国子ども熱源サミット」が、2023年3月24日から26日まで開催されました。このイベントは、全国から海マニアの小学生20人が集結。自分たちの活動を発表したり、さまざまな海の知見を学習したりしながら、海への関心をもっと深めてもらおうというもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として開催されました。

No.	3	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/414129d24e6a25bac1375ad1d4c673e0eb2ee23c				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン  お買い物がお得になるクーポンがたくさん



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

スーパー中学生が大好きな海の生き物を3D化！～二期生の研究発表会&修了式「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」～

4/23(日) 15:45 配信  




海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクトの研究発表会が行われました

日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「海洋研究3Dスーパーサイエンスプロジェクト」の二期生の研究発表会が、2023年3月29日に行われました。このプロジェクトは、海や3Dに興味のある中学生が最新の3D技術を活用して海洋生物の研究を行うもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。

No.	4	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/b33d645176bf0bc1886ec8b0736074c0da22af40				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  お買い物がお得になるクーポンがたくさん



トップ | 速報 | ライブ | エキスパート | オリジナル | みんなの意見 | ランキン
主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | **ライフ** | 地域

目標10万種！新種の海洋生物を探すプロジェクト開始～日本財団とNekton財団による「The Nippon Foundation-Nekton Ocean Census」始動～

5/20(土) 12:00 配信  1   



日本財団「海と日本プロジェクト」

世界中の海で未知の海洋生物を発見するプロジェクト「オーシャン・センサス (Ocean Census)」の始動が、イギリス・ロンドンにて2023年4月27日に発表されました。このプロジェクトは、「海と日本プロジェクト」を始め、海にまつわる活動に長年取り組んで

No.	5	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/e792292b6b2f4e399d813f4c70fcc50a6611b766				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



PayPay支払いなら毎日5%（上限あり）

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキン

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

海岸が映画館！？逗子から映画と海洋問題を発信～第12回「逗子海岸映画祭」～

5/21(日) 12:00 配信 1



日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環として行われている海洋ごみ対策

日本財団「海と日本プロジェクト」

神奈川県の逗子海岸で「逗子海岸映画祭」が、4月28日からゴールデンウィーク中の1週間ほど開催されました。このイベントは、2010年から始まった映画祭で、海辺にスクリーンを設置し、国内外の映画を上映するというもの。夜の上映のほか、日中からフードコートやワークショップなど、さまざまなブースも並び、楽しむことができます。

No.	6	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/41d6c9cc715bdf97717f439dec3515eb50bb1854				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング
主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

コスプレイヤーが道頓堀の周辺でごみ拾い〜「春の海ごみゼロウィーク2023」キックオフイベント〜


5/27(土) 19:55 配信 4



日本財団「海と日本プロジェクト」

大阪・なんばで「コスプレde海ごみゼロ大作戦」が、2023年5月27日に行われました。このイベントは「春の海ごみゼロウィーク2023」のキックオフイベントとして開催されました。海ごみゼロウィークとは、環境省と日本財団が、海洋ごみ対策を目的として、2019年から実施している全国一斉清掃キャンペーンです。

No.	7	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/c5fb8dada129b3491d26930bc99a168d8dda4b9d				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング
主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 **ライフ** 地域

函館の灯台サウナや和歌山の灯台ホテルなどモデル事業が続々～灯台の利活用について語る「海と灯台のまち会議」～

6/11(日) 12:00 配信  1   



都内で「海と灯台のまち会議」が開催されました

日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「海と灯台のまち会議」が、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として2023年6月7日に開催されました。海の道標だった灯台は、その役割が変わってきています。そこでこのイベントでは、灯台の存在意義や利活用について、さまざま分野や業種の人が集まり、語り合いました。ファシリテーターを務めた日本財団の海野光行常務理事は「新しい灯台の魅力、人と海との関係、海と地域の関係や灯台との関係を見つめ直して、

No.	8	エリア	青森県 宮城県 山形県 香川県 高知県	カテゴリ	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/f1bc992c47e335cdd09f4aed97dd78f529b13091				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)

キーワードを入力

| Q

トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキン

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | **ライフ** | 地域

いま知っておくべき水難事故防止のそなえ～「溺れないため」と「万が一の対処法を身に着ける」という2つの水辺のそなえ～


6/17(土) 6:30 配信


SOCIAL INNOVATION NEWS

日本財団「海と日本プロジェクト」

ポストコロナ元年となった2023年。観光地には人手が戻ってきています。観光庁の旅行・観光消費動向調査によると、2023年1月から3月期の日本人国内旅行消費額は、速報値で4兆2,331億円とコロナ前の2019年と同水準、2022年と比較すると約80%増加とな

No.	9	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/e45dae78dc90633b53ca5bfb2e6a373e72bc54c6				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング
主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

香川県で川の水を抜いて大清掃！～瀬戸内4県（香川・岡山・広島・愛媛）と日本財団が共同する「瀬戸内オーシャンズX」による一掃作戦～

6/17(土) 12:00 配信



1



香川県の宇多津町などを流れる大東川で大規模な清掃活動が行われました

日本財団「海と日本プロジェクト」

香川県の宇多津町や丸亀市、坂出市など複数の市町を流れる大東川で、大規模な清掃活動が2023年6月4日に行われました。海洋ごみのおよそ8割は陸から発生したもので、川や水路をつたって流れ出ると言われています。そこで、瀬戸内海のごみゼロを目指し、日本財団と香川県、岡山県、広島県、愛媛県が協同して推進している「瀬戸内オーシャンズX」

No.	10	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/ee68feaa33aa00175dde83b4a5d5b91e8d651a5d				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



お買い物がお得になるクーポンがたくさん

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキン

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

命を救うライフジャケットの正しい着用方法～ライフセーバーが教える水難事故防止のための実践的な「そなえ」【前編】～

7/14(金) 17:30 配信



松本貴行さん

日本ライフセービング協会
副理事長 教育本部長
成城学園 教諭

**ライフジャケットはサイズがいちばん大事
そして 股紐がしっかり着いていること**

日本財団「海と日本プロジェクト」

これから夏本番。海や川でのレジャーで気をつけなければいけないのが、水難事故。事故を防ぐためには、さまざまな「そなえ」が必要です。そのひとつがライフジャケット。

「ライフジャケットはサイズがいちばん大事。そして、股紐がしっかり着いていることがポイント」と話すのは、公益財団法人 日本ライフセービング協会の副理事長／教育本部長で成城学園の教諭でもある松本貴行さんです。松本さんには以前「いま知っておくべき

No.	11	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/3cec7c663d1f7a9f8a694b7fddef5521fb442d16				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン 🔥 毎月5のつく日更新 10%OFFクーポン

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキン

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

水辺の事故防止！浮いて救助を本当に待てる？～ライフセーバーが教える水難事故防止のための実践的な「そなえ」【後編】～

7/14(金) 17:30 配信 4 🗨️ 🍌 🍌 🍌 🍌



日本財団「海と日本プロジェクト」

ポストコロナ元年の夏。海や川でのレジャーが増えると予想されます。そのため、水難事故を防ぐための「そなえ」が必要だと呼びかけているのが、公益財団法人日本ライフセービング協会の副理事長／教育本部長で成城学園の教諭でもある松本貴行さんです。

No.	12	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/d5f800ab2bc438cdb8e3376439fccf176dec186d				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン 🔥 毎月5のつく日更新 10%OFFクーポン

キーワードを入力 | 🔍

トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | **ライブ** | 地域

千葉県・御宿で聴覚に障がいを持つ人達のボディボード大会～世界一に輝いたプロもサポートする「AKEUMI Deaf BB CUP」～

7/28(金) 11:15 配信 0  

 SOCIAL INNOVATION NEWS



千葉県でAKEUMI Deaf BB CUP in 第1戦 御宿「海と日本PROJECT2023」が行われました

日本財団「海と日本プロジェクト」

千葉県の海岸で、“AKEUMI Deaf BB CUP in 第1戦 御宿「海と日本PROJECT2023」”が7月8日に行われました。Deaf（デフ）は「聞こえにくい人」のこと。このイベントは聴覚に障がいを持つ人によるボディボードの大会で、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環です。大会の目的について、イベントを主催する一般社団法人「陽けたら海へ」の代表理事・堀由美恵さんは「私自身、耳が聞こえないということで差別をされ、モ

No.	13	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/a303e732fa0d137168d181d6d8404c95f4057395				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン 毎月5のつく日更新 10%OFFクーポン



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

世界初にも挑戦！無人運航船プロジェクトの第2ステージ～ 「MEGURI2040」による無人運航船セミナー～

8/3(木) 15:10 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で日本財団 無人運航船プロジェクトMEGURI2040無人運航船セミナーが、2023年7月20日に行われました。

無人運航船とは、船内のほぼ全ての作業をAIなどが担当し、無人で運航する船のこと。今回のセミナーを開催した日本財団は、2020年に無人運航船プロジェクト

No.	14	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/29dcb136b59ea8cf34a0d7c842c9bc7a58ec9507				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキン

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

サザエさんが社会貢献者として特別賞～「第59回 社会貢献者表彰式典」


8/9(水) 13:20 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「第59回 社会貢献者表彰式典」が、2023年7月31日に行われました。この式典は公益財団法人 社会貢献支援財団による中心的事業で、日本財団の助成を受けて毎年実施。社会貢献支援財団の安倍昭恵会長が「社会課題の解決を、行政だけに頼るのは難しい現状に見て見ぬふりをできない皆さんが行動を起こしている」と式典冒頭の挨拶で話したように、社会の各分野で功績を挙げた人を表彰しています。

No.	15	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/a7a97f0e7c5d9bea1d9fa9b010db500fd6ef4826				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  誰でもZOZOTOWNが+10%お得に



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキン

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

子ども達がサンゴを守るお仕事を体験！～静岡県沼津市で行われた「こどもわーく 海のお仕事プロジェクト」～

8/16(水) 16:00 配信  1   



日本財団「海と日本プロジェクト」

静岡県沼津市でこどもわーく 海のお仕事プロジェクト「サンゴ保全のお仕事をしよう！」が、2023年7月29日に行われました。このプロジェクトは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として開催されているもので、子ども達に海のお仕事を通じて、海の大切さや地域の魅力を発見してもらう取り組み。全国各地で色々なお仕事体験イベントを実施しています。

No.	16	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/94c82735cf7a6d7a7a7979794ffac53e3c3b21b1				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキン

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | ライフ | 地域

海と人をつなぐ「御前崎 渚の交番」～マリンスポーツで子ども達の健全な心を育む～

8/18(金) 14:30 配信



 SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

「渚の交番」が全国各地に設置されています。渚の交番とは、日本財団が推進している豊かな海を次世代に引き継ぐ地域づくりの総合拠点。2009年に宮崎県で初めて開設され、2023年8月15日現在は全国14カ所に設置されています。

No.	17	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/c558a286a0b092046afff0923569d834685f413f				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン

ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキング

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

お相撲さんとサザエさんがビーチクリーン～片瀬東浜海水浴場で活動する「海と日本プロジェクト」と「海さくら」～

8/30(水) 12:00 配信

2




なんとお相撲さんとサザエさんが
タッグを組んで ごみ拾い

日本財団「海と日本プロジェクト」

江の島のすぐ近くにある神奈川県片瀬東浜海水浴場で、「どすこいビーチクリーン2023」が8月26日に行われました。このイベントは、NPO法人海さくらと日本財団が海と日本プロジェクトの一環として実施しました。

No.	18	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/06d0572da90c518a36cba4d2dd3e5978945e3e3b				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  ふるさと納税でPayPayポイントもらえる



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

海の自由研究をインフォグラフィック化！～小学生と美術専門学生がタッグ「第3回 海洋インフォグラフィックコンテスト」～

9/5(火) 16:20 配信  




第3回 海洋インフォグラフィックコンテストです

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京タワーの近くにある機械振興会館で「第3回 海洋インフォグラフィックコンテスト」が、2023年8月19日に行われました。このコンテストは、小学生が作成した海の自由研究レポートを全国から募集。選抜された20人が美術専門学生とタッグを組み、レポートをわかりやすく視覚化したインフォグラフィックをつくるというもので、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として実施されました。

No.	19	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/1b5c290047764514dfd12e291189bb14ff128145				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン  PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | ライフ | 地域

コスプレイヤーが横浜を大清掃！～日本財団と環境省による「秋の海ごみゼロウィーク2023」キックオフイベント～

9/20(水) 19:00 配信  5     



横浜で「コスプレ de 海ごみゼロ大作戦2023」が行われました

日本財団「海と日本プロジェクト」

横浜で「コスプレ de 海ごみゼロ大作戦2023」が、2023年9月16日に行われました。このイベントは「秋の海ごみゼロウィーク2023」のキックオフイベントとして開催。海ごみゼロウィークとは、日本財団と環境省が海洋ごみ対策を目的として、2019年から実施している全国一斉清掃キャンペーンです。

No.	20	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/971a7afe05719f69888bb74feef25355594b59fb				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン 誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | ライフ | 地域

ミシュランシェフが伴走！学生が海と食を学んで実践するプログラム～Chefs for the Blueによる「THE BLUE CAMP」【前編】～


9/22(金) 14:25 配信 0



日本財団「海と日本プロジェクト」

東京と京都で、学生たちが運営しトップシェフがサポートするポップアップレストランが、2023年8月11日から19日までオープンしました。これは、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環として、「Chefs for the Blue」が行ったプログラムの集大成です。

No.	21	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/99b0893e2fd4bbc301f52c9bc3dc3a53fce67bab				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

ミシュランシェフが伴走！学生が海と食を学んで実践する「THE BLUE CAMP」～3カ月間の集大成・ポップアップレストラン開店【後編】～

9/22(金) 14:25 配信  



**オープニングとして ホール担当のチームが
彼らの想いと海の現状をお客さんに伝えました**

日本財団「海と日本プロジェクト」

(前編はこちら (<https://social-innovation-news.jp/?p=1597>))

東京と京都で、学生たちが運営しトップシェフがサポートするポップアップレストランが、2023年8月11日から19日までオープンしました。これは、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環として、「Chefs for the Blue」が行ったプログラムの集大成で

No.	22	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/363f0bff81aa30a6529441055a86e723dace801e				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン 誰でもZOZOTOWNが+10%お得に



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

デザインから海を知る・考える～東京・六本木で開催中の「第二回 国際海洋環境デザイン会議」～

10/3(火) 10:40 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・六本木で「第二回 国際海洋環境デザイン会議」が、2023年9月30日から行われています。このイベントは、海の可能性や魅力、深刻化する海洋問題などを「デザイン」から知り、考えるというもの。海洋教育とデザインを融合しながら実践的なプログラムを提供している一般社団法人3710Lab（みなとラボ）と、海と日本プロジェクトをはじめ、さまざまな海にまつわる事業を展開している日本財団が共同で開催しています。

No.	23	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/5a46e7b9d6bbf32a01a37841dcaad60b9ce35652				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力

[トップ](#) | [速報](#) | [ライブ](#) | [エキスパート](#) | [オリジナル](#) | [みんなの意見](#) | [ランキング](#) | [有料](#)[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

サザエさんと元日本代表アスリートとよみこ・濱口がコラボ！～イトーヨーカドーで海と日本プロジェクトとサザエさんがイベントを開催～

10/12(木) 16:45 配信

SOCIAL INNOVATION NEWS

海と日本プロジェクトの 特別推進パートナーとして活動中のサザエさんは

日本財団「海と日本プロジェクト」

都内のイトーヨーカドー木場店で、海づくしのスペシャルイベントが、2023年9月30日と10月1日に開催されました。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環で、海の魅力や海洋問題について知ってもらおうと

No.	24	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/ca57b428308788c2bfd4d80eb7ac01cba730283f				

YAHOO!
JAPAN ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン  誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力

[トップ](#) | [速報](#) | [ライブ](#) | [エキスパート](#) | [オリジナル](#) | [みんなの意見](#) | [ランキング](#) | [有料](#)[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)


日本代表が決定！世界初「スポGOMIワールドカップ」～新宿で日本STAGEが開催～

10/13(金) 12:00 配信  

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・新宿で「スポGOMIワールドカップ2023 日本STAGE」が、10月9日に行われました。スポGOMIとは、ごみ拾いとスポーツを掛け合わせた日本発祥の競技。2008年に誕生したこの競技が今年は、海洋ごみ対策を行う日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の活動の一環として、史上初のワールドカップを開催中です。

No.	25	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/ea344fcbe822b6806605c4d5304d44e7621695ad				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  PayPay支払いなら毎日5% (上限あり)



[トップ](#) | [速報](#) | [ライブ](#) | [エキスパート](#) | [オリジナル](#) | [みんなの意見](#) | [ランキング](#) | [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライブ](#) | [地域](#)

愛媛県が日本一！高校生が缶詰を開発する全国大会～LOCAL FISH CAN グランプリ2023～

10/20(金) 9:15 配信



2021年から日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています

日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「LOCAL FISH CAN グランプリ2023」が、10月8日に開催されました。この大会は、全国の高校生が獲っても売れなかったり、食害をひき起こしたりする地域の「課題魚」を食材にして、オリジナルの缶詰を開発するというもの。2021年から日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われています。今年度は57のチームから応募があったそうです。

No.	26	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/d26c49c8285bcdff31ee2b5fa5b76c8477729b00				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に**新規取得**
ログイン 🔥 **[必ずあたる]** 毎日引けるくじ引きこちら



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 **ライブ** 地域

神奈川県・真鶴の磯で生物観察会～真鶴町立遠藤貝類博物館とディスカバールーによる「海のミュージアム」～

10/26(木) 13:50 配信 1




日本財団「海と日本プロジェクト」

神奈川県・真鶴半島の三ツ石海岸で「磯の生物観察会」が、2023年9月30日に行われました。このイベントは、NPO法人ディスカバールーと真鶴町立遠藤貝類博物館が共催しています。

「真鶴半島は、ぐるっと天然の磯に囲われている。そんな場所は日本にはあまりなくなってきている。磯の範囲が広い

No.	27	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/c797f3caa94afce3d8b14073cf680cceeaa65ae4				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  最大5,000円OFFクーポンあります



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

世界各国の海上保安機関トップが日本に集結～海上保安庁と日本財団が共催「第3回 世界海上保安機関長官級会合」～

11/3(金) 5:20 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

都内で「第3回 世界海上保安機関長官級会合」が、2023年10月31日から11月1日に行われました。開会式で議長を務めた海上保安庁の石井昌平長官が「近年、地球規模の環境変化により、海洋においてさまざまな被害や脅威が拡大している。グローバル化する課題に対し、世界の海上保安機関同士の連携強化や対話の拡大がこれまで以上に求められている」と話したように、この会合は、世界の海上保安機関が協力・連携するための場として海上保安庁と日本財団が共

No.	28	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/27cc56892cb3df6c4f2fd3aec6c25b2fc478c28a				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力

[トップ](#) | [速報](#) | [ライブ](#) | [エキスパート](#) | [オリジナル](#) | [みんなの意見](#) | [ランキング](#) | [有料](#)[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライブ](#) | [地域](#)

マルシェ・宿泊・現代の灯台守！灯台の利活用を考えるシンポジウムが開催～海と灯台ウィーク中に開催された「海と灯台サミット2023」～

11/10(金) 10:00 配信 0

SOCIAL INNOVATION NEWS

日本財団「海と日本プロジェクト」
の一環として開催されました

日本財団「海と日本プロジェクト」

11月1日の「灯台記念日」から11月8日までの期間、日本財団と海上保安庁が推進している「海と灯台ウィーク」。そのメインイベントとして、都内で「海と灯台サミット2023」が11月4日に開催されました（主催：一般社団法人海洋文化創造フォーラム 共催：日本財団「海と日本プロジェクト」）。日本には3000を超える灯台がありますが、海の道

No.	29	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/def6766a7b620a50b625edd321f8dacb95f1591d				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン  ふるさと納税でPayPayポイントもらえる



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ 地域

歓喜に涙も！高校生が海の課題と想いをポスターに～「うみぼす甲子園2023」決勝プレゼン大会～

11/17(金) 10:35 配信   0




うみぼす甲子園2023 決勝プレゼン大会が開催されました

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京都内で「うみぼす甲子園2023」の決勝プレゼン大会が、11月5日に開催されました。「うみぼす」は、「地元の海をスターにしよう！」を合い言葉に、2015年から行われている参加型の海のPRコンテストで、日本財団「海と日本プロジェクト」の活動の一環です。「うみぼす甲子園」は高校生のための大会で、今年で2回目の開催となりました。

No.	30	エリア	全国	カテゴリ	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/9e16d7a1d83048d7d5861a25f64ab8c2e50aa22e				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  最大5,000円OFFクーポンあります



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

スポーツごみ拾いで昨年6位だった大分代表の高校生が念願の優勝！～「スポGOMI甲子園2023」全国大会～

11/20(月) 17:00 配信  0  



スポGOMI WORLDCUP
コンセプトムービー




スポGOMIは ごみ拾いとスポーツが融合した 日本発祥の競技

日本財団「海と日本プロジェクト」

東京スカイツリー周辺で『日本財団「海と日本プロジェクト」スポGOMI甲子園2023』の全国大会が、11月12日に開催されました。スポGOMIとは、ごみ拾いとスポーツが融合した日本発祥の競技。この日に行われたのは、高校生ごみ拾い日本一を決める大会で、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の活動の一環です。

No.	31	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/2c51118cac2e09e0860b64686450c6a1f274c850				

YAHOO! ニュース IDをもっと便利に**新規取得**
JAPAN ログイン  LINEとつないで毎日5% ※上限あり



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

世界初！渋谷でごみ拾いのワールドカップ開催！～「第1回スポGOMIワールドカップ決勝大会」【前編】～

2023/12/2(土) 5:50 配信  



日本財団「海と日本プロジェクト」

東京・渋谷で「第1回スポGOMIワールドカップ 決勝大会」が、2023年11月22日に行われました。スポGOMIとは「ごみ拾いはスポーツだ！」を合言葉に行われる日本発祥の競技。2008年に生まれたこの競技が今年、15年の月日を経て、海洋ごみ対策を行う日本財団「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環として、**史上初のワールドカップを開催したのです。**

No.	32	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/6a2f1647069326488564f26b84b856d0c395c707				

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン 🔥 [毎日必ずあたる] くじ引き開催中



[トップ](#) | [速報](#) | [ライブ](#) | [エキスパート](#) | [オリジナル](#) | [みんなの意見](#) | [ランキング](#) | [有料](#)
[主要](#) | [国内](#) | [国際](#) | [経済](#) | [エンタメ](#) | [スポーツ](#) | [IT](#) | [科学](#) | [ライフ](#) | [地域](#)

世界初！渋谷でごみ拾いのワールドカップ開催！～「第1回スポGOMIワールドカップ決勝大会」【後編】～

2023/12/2(土) 5:50 配信 1




日本財団「海と日本プロジェクト」

(前編はこちら) (<https://social-innovation-news.jp/?p=1642>)

東京・渋谷で「第1回スポGOMIワールドカップ 決勝大会」が、2023年11月22日に行われました。スポGOMIとは、

No.	33	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/68558a6e8d2f3097be8a2abf0b9bd5684d8ee148				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
 ログイン  お買い物がお得になるクーポンがたくさん



トップ | 速報 | ライブ | エキスパート | オリジナル | みんなの意見 | ランキング | 有料

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | **ライフ** | 地域

外国人が日本の“魚をさばく”を体験～「Sabakeru: Sustainable Seafood Culture from the Japanese Kitchen」～

2023/12/9(土) 5:30 配信  



日本財団「海と日本プロジェクト」

東京で「Sabakeru: Sustainable Seafood Culture from the Japanese Kitchen」が、2023年11月29日に行われま
 した。このイベントは、魚をさばく体験から各地の海の食文化や海洋環境について学んでもらう活動をしている「日本
 さばける塾」と、多言語でニュースを配信している「nippon.com」が連携し、日本財団「海と日本プロジェクト」の

No.	34	エリア	宮城県	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/877786864a4742c96d818a0dd0036adc6b9bf499				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

閉館後の水族館でコンサートにディナー～仙台うみの杜水族館と新江ノ島水族館が行ったスペシャル体験～

2023/12/23(土) 5:15 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」

日本全国に100カ所以上もある水族館。国土面積あたりの数にすると世界一とも言われていますが、さまざまな取り組みが行われています。その中には、展示飼育されている生き物を鑑賞するだけではないものも。宮城県にある仙台うみの杜水族館では、「うみ想いコンサート」が2023年10月21日に行われました。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」が活動の一環として、仙台うみの杜水族館とコラボレーションした企画。三陸の海を再現し、50種3万

No.	35	エリア	全国	カテゴリー	ライブ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/4fe8dd9d3776ad42802a3587c38821883bd9d52a				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン  誰でもZOZOTOWNが+10%お得に

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライブ

地域

学生が掘り起こしたクジラを展示～東京海洋大学マリンサイエンスミュージアムにコククジラの標本を展示～

2023/12/28(木) 5:45 配信  

 SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」


東京海洋大学マリンサイエンスミュージアムにて、「コククジラの骨格標本 展示開始式」が、2023年12月1日に開催されました。このイベントは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。

2016年3月、南房総市内の防波堤に、体長9メートルほどのクジラの死がいが見つかって、調査の結果、絶滅が危惧されている

No.	36	エリア	全国	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/f97b35d33c0928fea0f0f611a9d668239beff98e				

YAHOO! JAPAN ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン  ふるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

三重の海から伊勢海老が消える！？～各地の海の課題に取り組む「海のごちそうプロジェクト」～

2/1(木) 16:45 配信



日本財団「海と日本プロジェクト」


食を通じて海に興味・関心を持ってもらう取り組み「海のごちそうプロジェクト」。日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、4年目となるこのプロジェクトはいま、活動の裾野がさらに広がっています。

No.	37	エリア	兵庫県 高知県 愛知県	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/ed127e8eab2a8a0636c029246280cb7fc047613e				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン  [毎日必ずあたる] くじ引き開催中

キーワードを入力



トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

必見！迫る災害の脅威に防災を！～愛知・兵庫・高知で行われている防災対策～

2/4(日) 7:00 配信




SOCIAL INNOVATION NEWS



日本財団「海と日本プロジェクト」

2024年の年明けに起こった能登半島地震。近年、災害の脅威が増す中、より注目されているのが「防災」で、各地ではさまざまな取り組みが行われています。

兵庫県では2018年9月に上陸した台風が各地に甚大な被害を出しました。南芦屋浜地区では、高潮で海水が住宅に流れ

No.	38	エリア	長崎県 鹿児島県	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/5a3ef7d2b459081d1be9d6ef18a2544a679654c7				

YAHOO!
JAPAN

ニュース

IDでもっと便利に新規取得

ログイン



[毎日必ずあたる] <じ引き開催中

キーワードを入力



トップ | 速報 | ライブ | エキスパート | オリジナル | みんなの意見 | ランキング | 有料

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | ライブ | 地域

ペンギンの長崎方式とジンベエザメのかごしま方式って?~水族館のお仕事@九州~

2/7(水) 16:00 配信



SOCIAL INNOVATION NEWS




この水族館では「長崎方式」という独自の飼育方法を行っています

日本財団「海と日本プロジェクト」

水族館は日本全国に100カ所以上もあり、国土面積あたりの数にすると世界一とも言われています。各地の水族館では展示以外にも重要なお仕事が。それが飼育・研究です。

長崎県にある「長崎ペンギン水族館」には、9種類180羽以上のペンギンが暮らしています。その飼育種類数は世界一

No.	39	エリア	和歌山県 山形県	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/a835cfade60b4b8f864fb82411d8d6e154675089				


YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に**新規取得**
ログイン  [毎日必ずあたる] くじ引き開催中



トップ | 速報 | ライブ | エキスパート | オリジナル | みんなの意見 | ランキング | 有料

主要 | 国内 | 国際 | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT | 科学 | **ライフ** | 地域

日本一や日本初だらけ！クラゲ・サンゴ・ウミガメで日本が誇るスゴイ水族館～水族館のお仕事@山形・和歌山～

2/11(日) 7:00 配信  




日本財団「海と日本プロジェクト」

水族館は日本全国に100力所以上もあり、国土面積あたりの数にすると世界一とも言われています。各地の水族館では展示以外にも重要なお仕事。それが飼育・研究です。

[和歌山県](#)にある串本海中公園。

No.	40	エリア	愛媛県 香川県 鳥取県	カテゴリー	ライフ
URL	https://news.yahoo.co.jp/articles/1db1f96deffa803b20f08477a9cfd2a02958b69b				

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン  LINEとつながいで毎日5% ※上限あり



トップ 速報 ライブ エキスパート オリジナル みんなの意見 ランキング 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライブ 地域

中国・四国地方でのブルーカーボンに関する取り組み～香川・愛媛・鳥取で行われる藻場づくり&磯焼け対策～

2/14(水) 16:00 配信    



日本財団「海と日本プロジェクト」

地球温暖化が叫ばれ続けている今、二酸化炭素の吸収方法として注目されているのが「ブルーカーボン」です。ブルーカーボンとは、海藻（海草）や植物プランクトンなどが行う光合成により、海水に溶け込んだ二酸化炭素が吸収されることによって、海洋生態系に貯められた炭素のこと。そんな中、海藻（草）が生い茂る場所「藻場」に関する取り組みが各地で行われています。

愛媛県で行われているのが「今治アマモプロジェクト」。海草「アマモ」がたくさん生えている場所「アマモ場」を再生させようという取り組みを行っています。「アマモ場」は、かつては日本の沿岸で多く見られましたが、高度成長期の沿岸域の埋め立てなどによって大幅に減少。特に瀬戸内海では、1960年から1990年の間に約7割が姿を消しまし

4 素材提供リスト

No.	提供素材	提供先一覧		URL(備考)
		放送県名	提供先・媒体名	
1	コスプレde海ごみゼロ大作戦	全国	オフィシャルとして提供	https://storyteller.box.com/s/aokoygblythbgqnv0opvh3zma9kzet
2	海と灯台のまち会議	全国	オフィシャルとして提供	https://storyteller.box.com/s/hohdw0hrwh8i4xkqvm99ac5lzw86c9d
3	無人運航船セミナー向けの資料		日本財団	https://storyteller.box.com/s/tvyz5eiexgariwwh8hi16no8gzxnr5f1
4	逗子海岸映画祭	TVK	猫のひたいほどワイド	https://storyteller.box.com/s/o81q81qnsvo0v2wx0aq6pi9hbfc97t94
5	スポGOMI甲子園2022	テレビ東京	所さんのそこんトコロ!	https://storyteller.box.com/s/nsjxs47ty9b8952bjkv81ewaysh0x17n https://storyteller.box.com/s/pvm6xt976pn86g3gllxskbjzxtohz8
6	第59回 社会貢献者表彰式典	CX系列局	CX系列局に撮影素材を提供	https://storyteller.box.com/s/02r9liuehwzc56mq7nfxpmw93sfz2mea
7	海洋研究 3Dスーパーサイエンスプロジェクト	全国	海と日本プロジェクト公式 Instagram	https://storyteller.box.com/s/0kgiyah6sgl2ddrg4ugybxbbu2nanjmr
8	海洋・川ごみアーカイブ映像	全国	海と日本プロジェクト公式 Instagram「海洋ごみ①」	https://social-innovation-news.jp/download/#gsc.tab=0
9	逗子海岸映画祭	全国	海と日本プロジェクト公式 Instagram	https://storyteller.box.com/s/o81q81qnsvo0v2wx0aq6pi9hbfc97t94
10	海洋・川ごみアーカイブ映像	全国	海と日本プロジェクト公式 Instagram「海洋ごみ②」	https://social-innovation-news.jp/download/#gsc.tab=0

No.	提供素材	提供先一覧		URL(備考)
		放送県名	提供先・媒体名	
11	いま知っておくべき水難事故防止のそなえ	全国	海と日本プロジェクト公式 Instagram「水辺のそなえ①」	https://storyteller.box.com/s/kuntq1kjfakbhrb3b9rcskzpbx3xlb52
12	水辺の事故防止！浮いて救助を本当に待てる？	全国	海と日本プロジェクト公式 Instagram「水辺のそなえ②」	https://storyteller.box.com/s/6sinmeq5vkjy8m4hbcpuuyf8np0pgdwc
13	千葉県・御宿で聴覚に障がいを持つ人たちのボディボード大会	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram 「ガチンコ ボディボード大会」	https://storyteller.box.com/s/qsvtuqoashclw7c81d0papayq5wklf7i
14	海洋・川ごみアーカイブ映像	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram 「川ごみと鳥」	https://social-innovation-news.jp/download/#gsc.tab=0
15	どすこいビーチクリーン2023	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram 「どすこいビーチクリーン2023」	https://storyteller.box.com/s/iws51i3at31s3jj51nc9253opqoe7o4p
16	コスプレde海ごみゼロ大作戦2023	全国	オフィシャルとして提供	https://storyteller.box.com/s/lxpdqg92yjo5pwjg72uprcecnfftyf6i
17	海洋・川ごみアーカイブ映像	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram 「海岸のごみの実態」	https://www.instagram.com/reel/CxfOQumrV5G/?utm_source=ig_web_copy_link&igshid=MzRIODBiNWFIZA==
18	THE BLUE CAMP		Chefs for the Blue	https://storyteller.box.com/s/8i48n0th81vgjxc68vj6uspq353si70
19	海洋・川ごみアーカイブ映像	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram 「波の音 sound of waves」	https://www.instagram.com/reel/CxxRp1mrIuq/?utm_source=ig_web_copy_link&igshid=MzRIODBiNWFIZA==
20	海のごちそうフェスティバル	全国	オフィシャルとして提供	https://storyteller.box.com/s/m8ekkbkbg0z1gu8x87cgkj8me8hnhkklk

No.	提供素材	提供先一覧		URL(備考)
		放送県名	提供先・媒体名	
21	スポGOMIワールドカップ日本STAGE	全国	オフィシャルとして提供	https://storyteller.box.com/s/2mu52oecjp9bijpxg3gugz9f7e3ifoqb
22	THE BLUE CAMP	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram 「ようこそ海の未来を考えるレストランへ」	https://www.instagram.com/p/CyVUt3lLdLv/?utm_source=ig_web_copy_link&igshid=MzRIODBiNWFIZA==
23	スポGOMIワールドカップ日本STAGE	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram 「1175チームの頂点は!? スポGOMIワールドカップ日本STAGE開催」	https://www.instagram.com/p/Cy5X5J9hrt-/?utm_source=ig_web_copy_link&igshid=MzRIODBiNWFIZA==
24	海と灯台サミット	全国	囲み取材をオフィシャルとして担当	
25	スポGOMIワールドカップ日本STAGE	TBS系列	Nスタ	https://storyteller.box.com/s/2mu52oecjp9bijpxg3gugz9f7e3ifoqb
26	スポGOMI甲子園2022	TBS系列	THE TIME	https://storyteller.box.com/s/2mu52oecjp9bijpxg3gugz9f7e3ifoqb
27	スポGOMI甲子園2022	TBS系列	ひるおび	https://storyteller.box.com/s/qe9i0yukdpufyybi02u1w0s1waaara8m
28	スポGOMI甲子園2023	・テレビ朝日系列 ・TBS系列 ・THE TIME	・オフィシャルとして提供 ・ワイドスクランブル ・THE TIME	https://storyteller.box.com/s/8kb3u0x5ghk2tu3wubghhfb4n77gplke ※試合前試合後はオフィシャル展開せず
29	第3回 世界海上保安機関長官級会合	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram	https://www.instagram.com/reel/C0BaFo4LYzv/
30	スポGOMI甲子園2023	全国	海と日本プロジェクト公式Instagram	https://www.instagram.com/reel/C0BaFo4LYzv/

No.	提供素材	提供先一覧		URL(備考)
		放送県名	提供先・媒体名	
31	うみぼす甲子園	全国	海と日本プロジェクト公式 Instagram	https://www.instagram.com/p/C0TfruQL6Ik/
32	海洋ごみアーカイブ素材	全国	海と日本プロジェクト公式 Instagram	https://www.instagram.com/reel/C03i1_qritt/
33	Sabakeru:Sustainable Seafood Culture from the Japanese Kitchen	全国	海と日本プロジェクト公式 Instagram	https://www.instagram.com/reel/C1JkFPILaLX/
34	Bistroえのすい		Chefs for the Blue	
35	スポGOMIワールドカップスポGOMI甲子園2023決勝大会	全国	エコトピア	https://ecotopia.earth/article-7922/
36	LOCAL FISH CANグランプリ	NHK	「BIZ STREAM」 NHK WORLD-JAPAN	https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2074186/
37	BacktoBlue「有害化学物質による海洋汚染ゼロの実現」パネルディスカッション	全国	オフィシャル	
38	海と灯台プロジェクト2023成果報告会	全国	オフィシャル	
39	マリンチャレンジプログラム2023全国大会	全国	海と日本プロジェクト代表局として提供	
40	海ノ民話シンポジウム	全国	海ノ民話のまちプロジェクト	オフィシャル対応

5 アーカイブ映像

5_(1)目的

海と日本プロジェクトの公式ページでの「海洋ごみ」や「海ごみ」での検索流入が常に上位であり、また、「海洋ごみの事情ページ」もアクセス数が高く、海洋ごみへの注目度が非常に高いことから、海洋ごみ関連の映像素材を無料で提供するアーカイブサイトを開設し、アーカイブ映像に「日本財団 海と日本プロジェクト」ロゴを入れることで、プロジェクトの認知度を高める。

5_(2)実施内容

数多くのごみが山積している様子や全体がわかる空撮素材、ひとつひとつのごみをアップで撮影した素材等の「海洋ごみ」映像や、大量のペットボトルごみが川を流れていく様子等、多様な種類の「川ごみ」映像、気候変動対策として近年注目を集めているアマモ等のブルーカーボンなど多数の映像素材をラインナップし、日本財団「海と日本プロジェクト」のロゴ付きで展開する。

また、海と日本プロジェクトの公式サイトから誘引することで、多くのメディアに広げていく。

【ソーシャル・イノベーション・ニュースアーカイブサイトURL】
<https://social-innovation-news.jp/download/>

5_(3)利用者状況

▼ダウンロード数 36件

▼使用目的の情報

- ・高知県のテレビ局が番組内で使用
- ・ポイ捨てや海洋ゴミを減らすボランティア活動紹介に使用
- ・学校でのビデオに使用
- ・親子向け音楽と環境問題のイベントに使用
- ・海と日本プロジェクト公式SNSで活用
(アーカイブ映像を使用したInstagramでの海洋ごみ関連の投稿は過去最高のリーチ数を記録)